



日本地球化学会ニュース

No. 206 August 2011

Contents

年会のお知らせ	2
2011年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)	
評議員会議事録	5
2011年度第1回評議員会議事録	
院生による研究室紹介 No. 21	11
東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門	
海洋底テクトニクス分野	(川幡穂高教授)
書評	13
「地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで」(川幡穂高)	
2011年度日本地球化学会年会プログラム	

年会のお知らせ

2011年度日本地球化学会年会のお知らせ(3)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会，日本鉱物科学会，日本質量分析学会，日本地質学会，日本分析化学会，日本海洋学会，環境科学会，北海道大学大学院環境科学・地球環境科学研究院

会期：平成23年9月14日(水)～16日(金)

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）と大学院地球環境科学研究院（北10条西5丁目）

年会 web サイト：<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2011/>

交通：JR 札幌駅北口・西口より徒歩5分
アクセスについては，下記のサイトを参照下さい。

駅からの経路：

http://www.hokudai.ac.jp/footer/ft_access.html

キャンパス内地図：

<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/map/guidemap.pdf>

内容：口頭発表及びポスター発表，総会，学会賞記念講演，懇親会，夜間小集会，閉会式。

口頭発表は，学術交流会館のA～Eの5会場に分かれて行われます。ポスター発表は同会館のホール，総会・学会賞記念講演は同会館のA会場，夜間小集会は地球環境科学研究院のD201室，懇親会はアспенホテルで行います。

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します。受賞者発表・表彰式は閉会式で行います。

プログラム：以下のページに掲載されております。

<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2011/program.html>
講演要旨は8月中旬から，J-STAGE上

<http://www.stage.jst.go.jp/browse/geochemproc/char/ja/>で公開されます。なお，要旨集の事前送付は行いません。学会当日に会場にて配布いたします。

年会当日の受付：学術交流会館1階のエントランスホールで，全日程の8時30分から開始します。

口頭発表について：口頭発表時間は，一部を除き，討論を含めて15分です。講演を12分以内で終了し，3分の討論時間を残すようにしてください。10分で第1鈴，12分で第2鈴，講演終了で第3鈴が鳴ります。なお，一部の講演（招待講演など）には討論時

間も含めて15分以上の場合がありますが，詳しくはプログラムをご覧ください。発表には各会場で液晶プロジェクター1台のみ使用できます。各プロジェクターに切り替え装置を接続しますので，次の発表者の方はプロジェクターにご自分のノートパソコンを接続し，発表に備えてください。発表されるセッション前の休憩時間に一度ノートパソコンを接続し，動作を確認してください。

ポスター発表について：各パネルボードには発表番号が示してあります。ポスターボードのサイズはA0判（縦120cm×横90cm）です。ポスターの左上角に必ずポスター番号を明記して下さい。掲示に使用する画鋏・テープなどは年会事務局で用意しますので，会場で受け取ってください。13時頃からそれぞれ1時間30分程度のコアタイムが設けられています。詳しくはプログラムをご覧ください。ポスターは各発表日の受付開始時刻より掲示可能ですが，各自のポスター発表のコアタイムまでに必ず掲示してください。発表者はコアタイムには必ずポスターの前に立って説明を行ってください。なお，ポスターは当日17時までに必ず撤去してください。それ以後も掲示してあるポスターは，年会事務局が処分しますのでご注意ください。

参加予約申込：年会 web サイトから，指示に従って申し込んで下さい。6月13日(月) 14時受付開始。8月26日(金) 14時締切。これ以降は，当日受付をご利用下さい。これらのお支払いは，年会 web サイトから，クレジットカードによるオンライン決済でお願いします。なお，各種の支払いは代理で行うことも可能です。クレジットカードによるお支払いが困難な場合は，年会事務局に締切の1週間前までにお知らせ下さい。年会当日の参加登録費のお支払いは現金となります。領収書を必要とする場合は，年会当日に受付にお申し出ください。

参加登録費（講演要旨集1部含む）：

予約：一般会員5,000円，学生会員2,000円，
会員外7,000円，会員外学生3,000円

当日：一般会員6,000円，学生会員3,000円，
会員外7,000円，会員外学生4,000円

*なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会された方も会員扱いとします。学部学生は無料（但し要旨集なし。登録はメールで事務局に直接）。

懇親会：9月15日(木) 学会賞等受賞講演終了後，18時

からアスペンホテルにて。(札幌市北区北8条西4丁目, Tel: 011-700-2111)

予約5,000円(学生3,000円), 当日6,000円(学生4,000円)。

追加の講演要旨集: 3,000円/部(当日手渡し)(後日郵送の場合は3,500円/部)。

併設展示: 関連機器メーカーその他による展示会を学術交流会館1階ホールにて開催します。多数の方のご来場をお待ちしております。

保育施設: 北大事業所内保育所「ともに」に委託します。利用料金は、基本保育時間(8:00~19:00)の場合、0歳児(8週以降)1,000円/時間、1~2歳児 800円/時間、3~6歳児 600円/時間、延長保育時間(7:00~8:00, 19:00~22:00)の場合、0~6歳児 1,400円/時間となります。年会参加者で、お子様の一時預かりをご希望の方は、参加予約申込締切の8月26日(金)までに年会事務局までご連絡下さい。

その他: 年会事務局では宿泊・航空券等の斡旋はいたしません。各自お早めに手配ください。

年会事務局:

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目
北海道大学大学院地球環境科学研究院内
2011年度日本地球化学会年会事務局
E-mail: gsj 2011-loc@geos.ees.hokudai.ac.jp

●市民講演会のお知らせ:

日本地球化学会では、年会の後に、市民講演会を開催致します。会員の皆様もぜひご参加下さい。

行事名: 日本地球化学会市民講演会「環境と宇宙の地球化学」(主催: 日本地球化学会)

日時: 2011年9月17日(土) 13:00~15:00 (12:30開場)

場所: 北海道大学大学院地球環境科学研究院 D 201室
(札幌市北区北10条西5丁目)

対象: 中高生, 一般市民(事前の予約は必要ありません)

プログラム:

1. 地球温暖化の歴史と未来
大場忠道(北海道大学名誉教授)
 2. 惑星探査機「はやぶさ」によりわかりつつある新しい太陽系像
坂本尚義(北海道大学大学院理学研究院教授)
- 詳細は年会ホームページをご覧ください。
<http://www.wdc-jp.biz/geochem/2011/public.html>

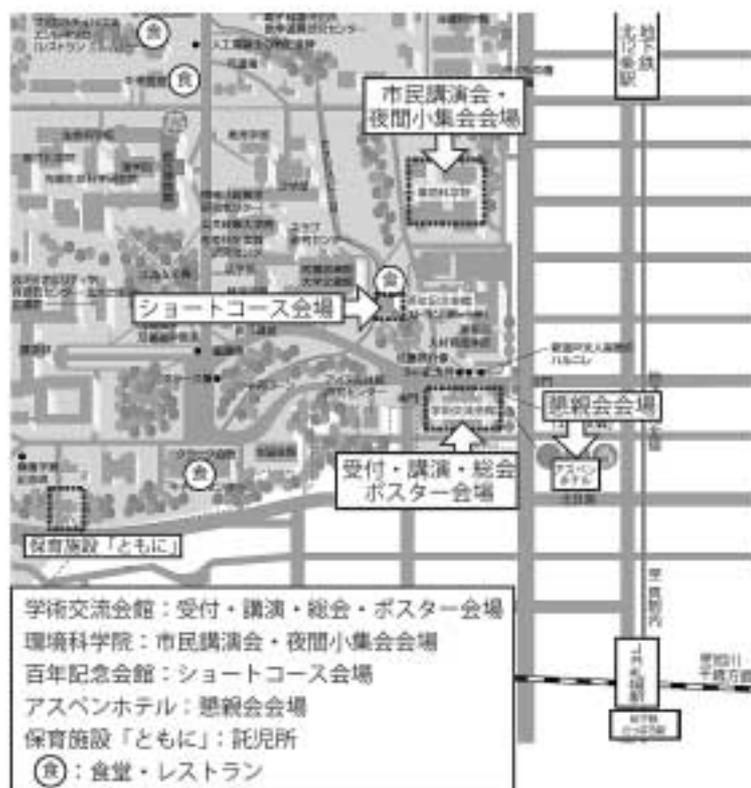
連絡先・問い合わせ:

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目
北海道大学大学院地球環境科学研究院内
2011年度日本地球化学会年会事務局
E-mail: gsj 2011-loc@geos.ees.hokudai.ac.jp

2011 年度 日本地球化学会年会会場（北海道大学札幌キャンパス）への案内



各会場案内



評議員会議事録

●2011年第1回評議員会議事録

日時：2011年2月12日（土曜日）

時間：11時から16時45分

場所：JAMSTEC 東京事務所

出席：海老原充会長，吉田尚弘副会長，鍵裕之，川口慎介，川幡穂高，下田玄，鈴木勝彦，高橋嘉夫，谷水雅治，中井俊一，西尾嘉郎，野尻幸宏，平野直人，松枝秀和，丸岡照幸，山本鋼志評議員，三澤啓司

欠席：松久幸敬監事，佐野有司 GJ 編集委員長，橘省吾，谷本浩志，松本拓也，山中寿郎評議員

報告事項

1. 報告事項等

1.1. 庶務 三澤庶務幹事

1.1.1. 2011年度の委員について：学会賞等選考：吉田（11年まで），以本（11年まで），野尻（委員長），岩森，山本各会員。鳥居基金：平田（11年まで），蒲生（委員長，12年まで），鍵（13年まで）各会員。

1.1.2. 2011年度の国際文献との契約：不要なバックナンバーを廃棄し，管理コスト削減をめざす。

1.1.3. GJ 出版に関わるテラパブとの覚書2011年度（Vol. 45, No. 1）以降について，ドル円為替レートを85円とし，変動した場合は両者で協議することとする。

1.1.4. 鳥居基金応募状況国内研究集会：3件海外派遣1件。

1.1.5. 学会賞等推薦状況：学会賞2件，功労賞1件，奨励賞3件。

1.1.6. J-Stage 早期公開プログラム進捗状況：DOI 付きで GJ 受理論文を J-Stage にて公開（2011年3月開始?）。

1.1.7. 2010年育志賞選考結果：本会からの推薦（1件）は，採択されず。

1.1.8. 和文誌「地球化学」広告：地球科学研究所，三愛科学，ジャスコインタナショナル，太陽日酸，いずれも Web，その他は交渉中。

1.2. 会計：谷水会計幹事

1.3. 会員：丸岡会員幹事

12月に入り会費請求書を送付し，1/31に締め切った。請求書到着時点でお知らせのメールニュースを送った。

12月末をもって，3年間会費未納者12名を除名にした。2010年末での1～2年未納者の退会希望に関しては，これまで通り未納のまま「退会」という形にするが，2011年度以降は前もって当該会員と連絡をとって，未納での退会は「除名」扱いとすることとした。除名者が再度入会を希望する場合は，未納分の納付を義務付ける（明文化されていない）。

会員数の増減（昨年度末との比較する）。

会員種別 2009/12 2010/12

一般正会員 722 -> 717

学生正会員 114 -> 119

（うち，学生パック61 -> 55）

シニア正会員 63 -> 62

賛助会員 11 -> 9

（契約口数15 -> 9）

名誉会員 9 -> 9

合計 919 -> 916

年度末の退会者（今年度26名）も昨年度（36名）よりも少なく，入会者が増えなかった分を退会者の減少で補った形で会員数をほぼ維持している。

現在の会員数は，以下のとおり。

日本地球化学会会員数（2011年1月31日）

会員種別 人数

一般正会員 723

学生正会員 119 うち，学生パック36

シニア正会員 62

賛助会員 9 （契約口数9）

名誉会員 9

合計 922

（GJ 冊子体配布に関して，要：437名，不要：485名）

会員異動（2010/09/01～2011/01/31）

【入会】

（9月）

（正会員）

9282699 ALAM, MOHAMMAD AYAZ

Universidad de Chile, Departamento de Geologia

9282712 瀬戸蘭美 セトマユミ

奈良女子大学・理学部・情報科学科

（学生パック）

9282690 山本真里子 ヤマトマリコ

名古屋大学大学院・環境学研究科・都市環境学専攻

9282695	片山樹里 カタヤマジュリ 北海道大学理学院・自然史科学専攻	pheric Research, Ocean Geology (学生正会員)
9282700	山中康平 ヤマナカコウヘイ 近畿大学大学院・総合理工学研究科・理学専攻・地球化学研究室	9282718 篠崎鉄哉 シノザキテツヤ 筑波大学大学院・生命環境科学研究科・生命産業科学専攻
9282702	吉田 怜 ヨシダサトシ 北海道大学大学院・環境科学院・地球圏科学専攻・物質循環・環境変遷学コース	(学生パック)
9282703	佐野和広 サノカズヒロ 富山大学大学院・理工学教育部・生物圏環境科学専攻	9282714 山崎敦子 ヤマザキアツコ 北海道大学大学院理学院・自然史科学専攻
9282704	太田朋子 オオタトモコ 富山大学大学院・理工学教育部・生物圏環境科学専攻	9282720 北村文彦 キタムラフミヒコ 東京大学大学院・理学系研究科・地殻化学実験施設
9282705	高田理恵 タカダリエ 九州大学大学院理学府・地球惑星科学専攻・無機生物圏地球化学研究室	【退会】 (9月)
9282706	丸山浩司 マルヤマコウジ 東京大学大学院・理学系研究科・化学専攻地殻化学実験施設	9280731 吉野諭吉 シニア正会員 2009/5/8逝去
(10月)		9282379 齊藤友比古 学生正会員 2009/4逝去
(学生パック)		(10月)
9282710	福田美保 フクダミホ 筑波大学大学院・生命環境科学研究科	なし
(11月)		(11月)
(学生パック)		なし
9282708	斎藤直樹 サイトウナオキ 筑波大学大学院・生命環境科学研究科・環境科学専攻	(12月)
(12月)		281197 澤田 清 一般正会員 逝去
なし		7280348 森田良美 シニア正会員 逝去
(1月)		7282056 篠塚一典 一般正会員 2010年度会費未納
(一般正会員)		5280933 佐藤芳徳 一般正会員 2010年度会費未納
9282716	大竹 翼 オオタケツバサ 東北大学大学院・理学研究科・地学専攻地球惑星物質科学科	9282499 丸山匡臣 学生正会員 2009, 2010年度会費未納
9282717	布川 裕 フノカワユタカ 北見工業大学・未利用エネルギー研究センター	2282095 西進商事東京支店 賛助会員
9282719	大木可奈子 オオキカナコ さいたま市健康科学研究センター・環境科学課	4280565 砂川一郎 シニア正会員
9282721	RICHARD, WYSOCZANSKI National Institute of Water and Atmos-	7280467 佐藤和郎 シニア正会員
		282237 清水直哉 一般正会員
		1280920 前田仁一郎 一般正会員
		2280213 川野田実夫 一般正会員
		2280309 水上正勝 一般正会員
		2280462 佐々木一敏 一般正会員
		3281237 菅 和哉 一般正会員
		4281780 中村純也 一般正会員
		5281482 永野哲志 一般正会員
		6282127 渡邊真紀子 一般正会員
		7282294 藤本隆之 一般正会員
		8280095 平尾良光 一般正会員
		8282093 服部裕史 一般正会員
		9280690 渡辺吉博 一般正会員
		9282074 石橋 浩 一般正会員
		9282519 永石一弥 一般正会員

9282586 中尾武史 一般正会員
 9282637 川瀬雅也 一般正会員
 3282292 石崎 維 学生正会員
 9282411 岡野和貴 学生正会員
 9282441 柏 麗麗 学生正会員
 9282443 小池庸代 学生正会員
 9282549 児玉将大 学生正会員
 9282572 小野森弘 学生正会員
 9282601 神田ゆか 学生バック

(1月)

9282683 中嶋勇輔 学生正会員

【会員種別変更】

(9月)

なし

(10月)

なし

(11月)

なし

(12月)

2280525 清水 洋 変更前 一般正会員 変更後 シニア正会員

(1月)

9282385 吉野 徹 変更前 学生正会員 変更後 一般正会員

9282486 山岡香子 学生正会員 一般正会員

9282589 萩原崇史 学生バック 学生正会員

9282596 山田健太郎 学生バック 学生正会員

9282597 服部祥平 学生バック 学生正会員

9282605 中田亮一 学生バック 学生正会員

9282608 富部麻利子 学生バック 学生正会員

9282609 山内理恵子 学生バック 学生正会員

9282610 朝比奈健太 学生バック 学生正会員

9282611 小澤 萌 学生バック 学生正会員

9282613 伊藤絵理佳 学生バック 学生正会員

9282614 松倉誠也 学生バック 学生正会員

9282615 中川麻悠子 学生バック 学生正会員

9282619 安齊沙耶 学生バック 学生正会員

9282620 大山拓也 学生バック 学生正会員

9282621 佐藤晋太郎 学生バック 学生正会員

9282623 佐久間博基 学生バック 学生正会員

9282627 山田明憲 学生バック 学生正会員

9282628 内藤裕一 学生バック 学生正会員

9282629 松田伸太郎 学生バック 学生正会員

9282630 長島加奈 学生バック 学生正会員

9282631 荒川裕子 学生バック 学生正会員

9282648 長嶺 篤 学生バック 学生正会員

【除名】

(一般正会員)

281733 BARNARD, WALTHER M.

281818 吉村潤也

1280362 中村裕二

1281587 齋藤貴之

2281609 白幡浩志

3280818 藤田隆男

5280911 門谷 茂

9281859 加藤 研

(学生正会員)

3282225 下川原 誠

9282137 伊敷 牧

9282412 福本 塁

9282440 加藤智樹

1.4. 広報 鈴木 HP 幹事

2011年1月9日に広報委員会を開催。ニュース幹事、広報幹事、HP幹事の仕事を任期中に整理して、来期に引き継ぐ。

1.4.1. 学会ホームページ

1.4.1.1. 地球化学会サイトにおける「会員の研究成果」宣伝ページの開設について(原田委員担当): 学会ホームページのトップページにおいて、GJ eレターの紹介文を依頼し必ず掲載することとした。委員会から依頼するのはNature, Scienceなどの一般誌に掲載された場合のみとし、専門誌に掲載された成果の紹介については、別途「会員による最近の研究成果」ページを新設することとした。原田委員が中心となり、最新の研究成果宣伝ページを開設した。今後メールニュース等を通じて、開設したことを周知する。

1.4.1.2. 英語ページ(各委員担当) Goldschmidtの前に学会ホームページの英語版の整備を計画。広報委員での対応には限度がある。学会ウェブの更新のタイミングで翻訳業者に依頼を検討する。

1.4.1.3. 学会ウェブの改訂について: 学会ウェブは掲載する情報が増えたうえに多岐にわたり、情報が見えにくくなってきたので、将来的に(来年前半)中規模の改修をしたい。今後必要な費用について検討を進める。

1.4.1.4. Q&A ページ(丸岡委員担当): 前回の評議員会以降は新しい質問はなかった(これまでの総質問数は4件程度)更にページを充実させるため、新

たな質問を追加する予定。

- 1.4.1.5. 広告の募集：現在ウェブ広告はテラパブのみである。ホームページ広告を年間20万円から12万円に変更した後も新たな広告はなし。アクセス数 2万弱/月。テラパブのクリック数 約140/月。
- 1.4.2. 講師派遣（山本委員，小木曾委員担当）：前期から準備を行ってきた講師派遣事業を2010年1月から開始した。本事業は，「最先端の研究者が初等中等教育の場に出向いて，地球や惑星の謎を解く喜びや最先端の科学の現場を伝えることにより，地球化学の視点から理科の面白さを積極的にアピールするとともに，学会と教育現場の交流を促進することを目的」としている。HPに講師の情報を掲載し，高校教師などが登録しているメルマガなどで情報提供してきた。事業開始から約1年，2月8日現在の派遣講師登録ならびに派遣依頼の状況を以下の通りである。派遣講師登録数：41名，出張依頼：13件。
- 1.4.3. 学会ブース
- 1.4.3.1. 年会でのブース：地球化学講座第8巻の販売，派遣講師の募集などの役割を終えたこと，広報委員のブースのマネジメントが容易ではないこと等を考慮し，今年の年会で開設しない方針。
- 1.4.3.2. Goldschmidt 2011のブース（下田広報幹事，折橋委員担当）：Conference bag が配られる場合には，ほとんどのケースで日本地球化学会のパンフとGJのチラシを入れていた。今年は費用対効果を考えて，地球化学会のパンフとGJのチラシをConference bag に入れない方針。ブースでは例年通り，パンフ，チラシ，GJのCDやGJを配布する。
- 1.4.3.3. 連合2011大会でのブース（下田広報幹事担当）：地球化学講座第8巻に加え，昨年好評だった会員の著書の販売を行う。その場合スペースが必要なので，昨年同様，2スパンのブースを借りる。ブース代として，3万円×2＝6万円を措置希望。また，ブース担当の協力を評議員に要請したい。
- 1.4.3.4. 学会パンフレット・GJチラシ配布：評議員が国内外の研究集会に参加する際に，事前に広報委員会に連絡すれば，パンフ・チラシを送る体制。今後，定期的に評議員メーリングリストに流す。
- 1.5. ニュース：谷本ニュース幹事（庶務幹事代読）
電子メールニュースの配信。2010年12月2日から2011年2月4日まで，No.168～199（計32件）のメールニュースを配信した。

ニュースレター No.203を「地球化学 Vol.44, No.4」巻末で発行した（2010年12月25日）。

ニュースレター No.204の発行予定（2011年3月25日発行予定）。

2011年度日本地球化学会第58回年会のお知らせ

日本地球化学会年会実行委員長

南川雅男教授（北大大学院地球環境科学研究所）
学会からのお知らせ

「地球化学」誌掲載の博士論文抄録の募集：高橋「地球化学」編集委員長

geochem.jp アカウントの個人利用について：丸岡
会員幹事

研究集会報告とお知らせ

日本地球惑星科学連合2011年大会：下田広報幹事

Goldschmidt 国際会議2011：下田広報幹事

鳥居基金助成実施報告（2009年度第2回）TE-66
（静岡県立大学環境科学研究所 光延聖）

鳥居基金助成実施報告（2010年度第1回）TE-68
（東大大学院理学系研究科 角野浩史）

院生による研究室紹介 No.19

首都大学東京大学院理工学研究科分子物質化学専攻
宇宙化学研究室（海老原充教授）（日高義浩）

1.6. GJ 佐野編集委員長（庶務幹事代読）

1.6.1. 2011年発行状況（1月28日現在）：2010年
No.6は，1月に配布された。2011年 No.1は，郵
送の都合により3月25日に配布予定。

1.6.2. GJ 誌の表紙デザインを更新する予定。新編
集委員長体制にあわせるとともに，和文誌「地球化
学」の現表紙デザインとも関係しているので，充分
考慮する。

1.7. 和文誌「地球化学」：高橋編集委員長

1.7.1. 編集委員の交代：沢田委員から辞任の申し出
があり，代わりに高野淑識委員が編集委員となっ
た。

1.7.2. 記事掲載予定：2011年 Vol.45, No.1。

企画総説「地球化学の最前線」

重光雅仁，山中康裕：生態系モデルを用いた海洋に
おける物質循環解析

報文

渡邊泉，秋山太一，佐野翔一：沖縄島北部やんばる
地域の生態系における水銀分布と他元素との関係

企画総説「地球化学の最前線」

原稿受付中。現在の投稿状況査読中。

板井啓明（本年2号掲載予定）：ベンガル平野にお

ける天然由来のヒ素による大規模な地下水汚染の発生機構～フィールド・実験的研究の現状と今後の課題～

吉村寿紘, 谷水雅治 (本年3号掲載予定): 炭酸カルシウムのCa, Mg安定同位体分別(執筆依頼中)
白井寛裕: 近年の火星隕石研究・火星探査から得られた火星の描像

執筆依頼予定者: 角野浩史, 平賀岳彦
投稿報文現在2編査読中

1.8. 企画: 鍵企画幹事

1.8.1. 2010年会(立正大学)報告: 黒字の原因として, 国際文献からの送金額が予想より大きかったこと, 要旨集の印刷代が抑えられたこと, 名札を名刺大の紙(色紙でない)に印刷したことが挙げられる。残金は基本的に北大に送金する(福岡実行委員長)。

1.8.2. 2011年 年会開催地: 北大学術交流会館(北8条西5丁目), 大学院地球環境科学研究院(北10条西5丁目)。会期: 2011年9月14日(火)から16日(金)。実行委員長: 南川雅男。会員市民講演会: 2011年9月17日(土)か9月10日(土)未定。「環境と宇宙の地球化学」(科研費申請済→4月に不採択の通知)。役割分担: 会計(杉本敦子), 会場・庶務(山本正伸), 懇親会(角皆潤), プログラム(河村公隆), 市民講演会(坂本尚義), ホームページ登録申し込み(入野智久)。

年会のホームページ(講演申し込みを含む)は国際文献印刷のシステムを利用: プログラムについてはセッション制を踏襲。

1.8.3. 2012年 年会: 開催地: 九州大学箱崎キャンパス文系地区。実行委員長: 吉村和久教授(九州大学理学研究院化学部門)。開催時期: 2012年9月中下旬の3日間。夏季休業中で9月の前半は使えない予定(時期に関しては, 2012年2月頃に初めて確定)。

2. 審議事項

2.1. 会員サービス向上に向けて

2.1.1. @geochem.jp アカウント利用について: 「xxxx@geochem.jp」の個人アカウントを必要な会員に提供することが承認され, 国際文献が手動にて<100件登録することとなった。会員幹事を窓口とし, 年度ごとに使用の有無を確認する。年度末前にメールニュース, 日本地球化学会ニュース No. 204

にてアナウンスをお願いし, 利用者を募る。

2.1.2. My page の充実化: 項単価が10万円ということから, 項目として追加が必要なものがあれば対応する。

2.1.3. その他: GJ 閲覧のパスワード, テラバブ(パスワード発行), 国際文献(my page)のやり取りが一元化されていない。GJ 早期公開サービスの開始に合わせて, パスワード発行, 管理を再度検討する。

2.2. GJ および和文誌「地球化学」の編集体制および編集委員長選出方法

Geochemical Journal および和文誌「地球化学」の編集体制に関する提案が高橋嘉夫, 吉田尚弘(日本地球化学会将来計画委員会)からなされ, 重要かつ喫緊の課題であるGJの編集体制およびGJ編集委員長等の選出方法について, 将来計画委員会案をもとに議論した。

2.2.1. GJ の編集体制について: GJ を取り巻く環境には, 地球惑星科学連合の新雑誌への対応, アジア圏からの投稿増加に対する対応, 迅速な対応が可能な編集体制の構築の必要性など, 困難な問題が多く生じている。そのような中で, GJ の編集体制は現在のところ編集委員長に過度の負担がかかる構造となっており, 編集委員長をサポートする体制を確立して, 上記のような問題に常に迅速かつ適切に対応する必要に迫られていた。

2.2.2. 和文誌「地球化学」の編集委員長の選出方法について: 和文誌「地球化学」も, 会員間の重要なコミュニケーション媒体として重要である。和文誌「地球化学」編集委員長の選出についても, これまで明確な取り決めがなかった。

このような中で, 2010年9月9日開催の将来計画委員会において, 編集委員長を様々な面で補佐する副編集委員長を置くことが提案された。その後, 佐野 GJ 編集委員長と議論をおこない, また幹事会, 将来計画委員会での検討をふまえて提言がなされた。

字句等の修正がなされた後, Geochemical Journal および和文誌「地球化学」の編集体制に関する申し合わせが承認され, 以下が申し合わせ事項として確定した。

Geochemical Journal の編集体制に関する申し合わせ
(1) Geochemical Journal (GJ) の編集は, GJ 編集

委員長 (Executive Editor) 1名, GJ 副編集委員長 (Vice Executive Editor) 3～5名, GJ 編集委員長が任命した GJ 編集委員 (Associate Editor) から構成される GJ 編集委員会がおこなう。

- (2) GJ 編集委員長の任期は2年とし, 再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。GJ 編集委員長は, 任期2年目の第1回評議員会において, 次期も継続して任にあたるかを表明し, 承認を得る。GJ 編集委員長が交代となる場合, 会長, 副会長, 現 GJ 編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた GJ 編集委員長選考委員会において次期 GJ 編集委員長候補者を選出し, 評議員会に諮る。次期 GJ 編集委員長は, 現 GJ 編集委員長の任期満了の6カ月前 (前年6月末日) までに決定する。
- (3) GJ 副編集委員長の任期は2年とし, 再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。新 GJ 編集委員長が選出された後に, 会長, 副会長, 新 GJ 編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた GJ 副編集委員長選考委員会において GJ 副編集委員長候補者を選出し, 評議員会に諮る。新 GJ 副編集委員長は, 新 GJ 編集委員長が主宰する新たな編集体制の構築に参画する。
- (4) 次期 GJ 編集体制の決定は, 2011年2月12日開催の評議員会において示されたスケジュールに沿って進める。

*参考: 2011年2月12日開催の評議員会において示された GJ 次期編集体制構築の手順
GJ 編集委員長が当期末をもって交代する場合, 次期 GJ 編集体制は, 以下の手続きを経て決定される。

2月: 評議員会において, GJ 編集委員長の当期末での交代あるいは継続の意思確認をおこない, 承認

*以下 GJ 編集委員長が交代する場合のスケジュール
3～5月: GJ 編集委員長選考委員会において次期 GJ 編集委員長候補者を選出

6月: 次期 GJ 編集委員長候補者について, 評議員会においてメール審議

9月: GJ 副編集委員長選考委員会において GJ 副編集委員長候補者を選出

9月: 次期 GJ 副編集委員長候補者について, 総会期間中に開催される評議員会において審議

和文誌「地球化学」の編集体制に関する申し合わせ

(1) 和文誌「地球化学」の編集は, 「地球化学」編集委員長と「地球化学」編集委員長が任命した「地球化学」編集委員から構成される「地球化学」編集委員会がおこなう。

- (2) 「地球化学」編集委員長の任期は2年とし, 再任を妨げない。任期は1月1日を開始日とする。「地球化学」編集委員長は, 任期2年目の第1回評議員会において, 次期も継続して任にあたるかを表明し, 承認を得る。「地球化学」編集委員長が交代となる場合, 次期「地球化学」編集委員長は, 会長, 副会長, 現「地球化学」編集委員長の3名と会長が指名した若干名を加えた「地球化学」編集委員長選考委員会において候補者を選出し, 評議員会に諮る。次期「地球化学」編集委員長は, 現「地球化学」編集委員長の任期満了の6カ月前 (前年6月末日) までに決定する。

(3) 「地球化学」副編集委員長は, 必要と判断された場合に, 「地球化学」編集委員長が候補者を選出し会長の承認を得て任命することができる。

(4) 次期「地球化学」編集委員長の決定は, 2011年2月12日開催の評議員会において示されたスケジュールに沿って進める。

*参考: 2011年2月12日開催の評議員会において示された和文誌「地球化学」編集委員長の決定スケジュール

現「地球化学」編集委員長が当期末をもって交代する場合, 次期「地球化学」編集委員長は以下の手続きを経て決定される。

2月: 評議員会において「地球化学」編集委員長の当期任期末での交代あるいは継続の意思確認をおこない, 承認

*以下「地球化学」編集委員長が交代する場合のスケジュール

3～5月: 「地球化学」編集委員長選考委員会において次期「地球化学」編集委員長候補者を選出

6月: 次期「地球化学」編集委員長案について, 評議員会においてメール審議

2.3. GJ の今後と出版社選定

海老原会長から出版社の条件を比較した表について説明があり, 今後テラと Springer の2社に絞って検討を続けていくことが了承された。契約は, 1月1日からとなるように努力する。

2.4. 横浜国立大学教育人間科学部 CST 養成プログラム

実施委員として、鍵企画幹事を推薦した。

2.5. 育志賞学会推薦選考方法

日本学術振興会育志賞の学会推薦の選考（1件）は、鳥居基金委員会がおこない、評議員会の承認をえることとした。

2.6. 講師派遣事業へのサポートについて

講師派遣事業は、この分野の裾野を広げ、将来の地球化学にとって重要な活動であることから。学会から講師派遣事業（講師の旅費）として20万円措置することとした。

2.7. 協賛、共催について

原子力総合シンポジウム2011（委員：松尾会員，協賛金5,000円）。第48回アイソトープ・放射線研究発表会（委員：村松会員）の協賛，共催を承認した。

3. その他

3.1. 松本評議員の海外異動について

海外在住の評議員として残任期間11ヶ月弱を活動していただく。

3.2. GS 分担金について

2010年が未払いであるが、そのままとする。2011年はLOCなどと連絡済、USD 3,000支払う予定。

3.3. 2012～13年役員選挙について

選挙管理委員長として、鈴木評議員，選挙管理委員として鍵評議員+JAMSTEC 所属の会員数名をお願いする。

3.4. 2011世界化学年に関連したイベント，共催等について

ショートコース，講演会，講師派遣の際に共催事業であることを謳う。



院生による研究室紹介 No. 21

東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門海洋底テク
トニクス分野

(川幡穂高教授)

東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門海洋底テク
トニクス分野に所属する川幡穂高教授の研究室の紹介



東京大学大気海洋研究所の入り口。去年の4月に
行われた開所式の様子。

をさせていただきます。川幡研究室は現在，川幡穂高教授，井上麻夕里助教をはじめとし，研究員1名，博士課程3名，修士課程11名，卒業研究生2名，秘書1名で構成されています。本研究室は東京大学大気海洋研究所にありますが，大学院生は主に東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻に所属しています。一昨年度までは東京大学海洋研究所として中野に所在していましたが，昨年度から気候システム研究センターと統合し，新たに東京大学大気海洋研究所として柏キャンパスに設立されました。新しい建物，新しい環境でより一層研究に励んでいます。川幡研究室は他の研究室に比べて女性の比率が高く，賑やかで親しみやすい研究室です。

私達の研究室の主なテーマは，地質学的，地球化学的手法を用いて物質循環と地球表層環境に関して過去・現在・未来における変遷を明らかにすることです。本研究室の特徴のひとつは，上記のような大きなテーマの下に学生一人一人が全く異なったサブテーマを持ち，そのサブテーマに対して様々な手法や試料を用いてアプローチしていることです。そのため，研究室のセミナーではいろいろな視点から先生・先輩方からアドバイスをいただけるので，地球環境について視野を広く勉強することができます。しかしその分，各個人が自身の専門について深く勉強し，研究を開拓していく姿勢が求められます。

また，本研究室では，産業技術総合研究所や海洋研究開発機構などの様々な研究機関に学生を受け入れていただき，各機関に長期滞在しながら，新規同位体指標の確立など先端的な研究手法の開拓を行っています。フィールドでのサンプリングの機会も多く，各々



高知コア研究所でのサンプリングパーティーの様子。採取した堆積物コアを2 cm おきにサブサンプリングしています。

の調査対象や地域も多岐に渡っていることもあり、いつも誰かしらが調査や分析のために研究室を留守にしている状況です。そんなフットワークの軽さも本研究室の特徴かもしれません。

ここからは本研究室の研究テーマをいくつかピックアップして詳しく紹介していきます。

過去や現代の環境変動に対する人間圏の応答を理解することは、私達が将来直面する環境への対応を考える上で重要です。たとえば、未来の温暖期を想定するために、人類が経験した過去の温暖期である縄文時代に着目し、気候変動と文明との関わりを研究しています。三内丸山遺跡からわずか20 km 離れた陸奥湾から採取した堆積物試料中のアルケノン分析による水温復元結果から、三内丸山遺跡が栄えた約5000年前には現在より約2.0℃ほど温暖であったことが明らかになりました。しかし、4200年前に突然2.0℃ほど急激に寒冷化していたことも分かり、寒冷化による陸上の食料生産の激減が遺跡の衰退をもたらしたことが予想されました。現在は、この気候の変化は東日本だけでなく日本全域における現象なのかを明らかにするため、広島湾より堆積物を採取し各種分析を行っています。また、気候と人間との関わりを調べるために、縄文時代だけでなく、奈良時代や平安時代はどうだったかなどにも興味をもち、今年の7月には大阪湾において高解像度の堆積物コアを採取しましたので、今後分析を行っていく予定です。

温暖化の他に、大気中二酸化炭素の増加によって引き起こされる海洋酸性化が、将来の生物圏に及ぼす影



琉球大学熱帯生物圏研究センター内での精密飼育実験の様子。

響についての研究に取り組んでいます。例えば、水温、光量、 $p\text{CO}_2$ 等の飼育環境をコントロールした精密飼育実験をサンゴ、有孔虫、翼足類等の海洋石灰化生物を対象に行ってきました。これまでの飼育実験の結果、海洋酸性化は多くの石灰化生物の石灰化量を単純に減少させるわけではなく、種レベルで複雑な応答を示すことがわかってきました。また、精密飼育実験から得られた生物学的な知見は、例えば古気候復元ツールとしてのサンゴ長尺コアの化学分析結果を再評価することにも貢献します。

環境指標として微量元素や酸素同位体比だけでなく、近年ではホウ素やマグネシウム、リチウムなどの微量元素の同位体比についても、新たな指標として確立することを目指し、測定手法の開発にも力を入れています。

また、物質循環の人為的な攪乱も、地球温暖化などを介して気候に、海洋酸性化や栄養塩動態への変動を介して生物へと影響することがわかっています。本研究室では特に、短い時間スケールでの陸域から海域への河川を介した炭素、栄養塩輸送過程の変化が地球表層の炭素循環にもたらす影響について研究しています。例えば気候変動の要因の一つとして、大気中の二酸化炭素濃度の増加が挙げられますが、長い時間スケールでは陸域は風化作用によって二酸化炭素を除去する働きがあります。しかし日本の河川において短い時間スケールでは、河川により輸送される二酸化炭素の起源はむしろ土壌有機物にあり、温暖化などでその輸送量は大きく変化する事が明らかになってきま



バングラデシュ国内のガンジス川における採水の様子。



川幡研恒例(?)行事である、現役・OBOG・川幡研関係者による温泉旅行時の集合写真。

した。

今後は世界の大河川を例に検証を行っていきたくと考えています。今年の1月にはバングラデシュにいき、ガンジス・ブラマプトラ水系の河川水の採取を現地研究者と連携して実施してきました。その他にも、栄養塩動態や土壌有機物の影響を考察するために、釧路の泥炭湿地や沖縄の地下ダム調査も実施しており、鋭意分析中です。

このように、多岐にわたる本研究室の研究内容はこのページではまだまだ紹介しきれないので、より研究室の詳しい情報を知りたい方は、本研究室の所属する海洋底科学部門のホームページ (<http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp>) をご覧ください。

(東京大学大気海洋研究所海洋底科学部門
海洋底テクトニクス分野川幡研究室
修士課程2年 氷上 愛)



書評

「地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで」

著者：川幡穂高（東京大学大気海洋研究所）

出版社：東京大学出版会，292ページ

2011年7月発行，3,990円（本体+税込み）

ISBN-10：4130627201，ISBN-13：978-4130627207

本書は、現世の地球表層環境システムを述べた前著「海洋地球環境学—生物地球化学循環から読む」（東京大学出版会2008年）に続く教科書である。内容は、全8章から構成される。章立ては、地球表層環境システムと年代（1章）、先カンブリア時代の地球表層環境（2章）、古生代の地球表層環境（3章）、中生代の地球表層環境（4章）、新生代の地球表層環境（5章）、第四紀の地球表層環境（6章）、超長期の環境変動（7章）、人間圏の成立と現代・近未来環境の行方（8章）である。地球表層環境システムは、4つのサブシステム（大気圏、水圏、生物圏、地圏）から構成される。その中で原核生物と真核生物が、能動的あるいは受動的に呼応し、進化し、連綿と地球生命史を繋いできた。その系統的な理解が、本書の主旨といえる。

著者は、もともと化学科出身の研究者であり、地質学、古海洋学、生物地球化学、古生物学等の異分野への横断を丹念に進めておられる。評者が感じた、本書からにじみ出てくる新しいフレーバーは、地質学的・古生物学的なポイントを整然とさせた上で、化学的な視点から地球生命史を描写されている点である。これは、ケミストリーを背景・武器にする地球化学者にとって、肌身を感じる筆致である。全体を通した記述は、非常に定量的で、様々な支配因子の説明がわかりやすい。最新の学説とその裏付けも網羅的に解説されている。理学系・工学系・環境学系等の大学の講義でも有用である。大学生や異分野の若手研究者らにも理解しやすい文体になっている。

現代に生きる我々にとっても、目を見張る近過去のサイエンスが紹介されている。第8章では、人間の営みと気候変動の因果関係、そして未来予測について考察している。例えば、青森県の三内丸山遺跡。評者を

含め、ここを訪問された方は、縄文中期の生活様式がいかに優れていたかを垣間見ることができる。著者らの研究による陸奥湾の古水温復元等に基づくと、「2.0℃」という急激な水温・気温低下が当時の人々の生活に深刻なダメージを与えたという。また、八重山諸島全体で3万人の犠牲者といわれる明和の大津波（1771 AD）等の地質災害（ジオハザード）、 $p\text{CO}_2$ 増

加による海洋酸性化と生態系危機予測、等にもふれられている。本章の迫力の一つは、考古学的な事象・人間圏が直面してきた（している）事象に対して、自らの足で調査を行い、オリジナルの研究結果を蓄積し、定量的な数値と共に考察している点である。

（独立行政法人海洋研究開発機構・海洋極限環境生物圏領域・高野淑識）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2011年12月頃を予定しています。ニュース原稿は10月下旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会ニュース・HP 幹事）

谷本浩志

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2
国立環境研究所
地球環境研究センター

Tel：029-850-2930

E-mail：news-hp@geochem.jp

鈴木勝彦

〒237-0061 横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球内部ダイナミクス領域研究（IFREE）

Tel：046-867-9617／Fax：046-867-9315

E-mail：news-hp@geochem.jp

2011 年度日本地球化学会第 58 回年会
プログラム

会期：9 月 14 日（水）～ 16 日（金）

会場：北海道大学学術交流会館

セッション番号	セッション名	スピーカー	日程	会場	ポスター番号
1	大気微量成分の地球化学と相互作用	谷本浩志	第1日	B	1P01-1P07
2	古気候・古環境解析の地球化学	原田尚美	第1-2日	A	1P08-1P17
3	放射性廃棄物と地球化学	日高洋	第1日	D	1P30-1P35
4	水-氷物界面の地球化学	福士圭介	第3日	D	3P40-3P42
5	海洋における微量元素・同位体	蒲生俊敏	第2日	B	2P01-2P08
6	水-岩石相互作用:水質形成~CO ₂ 地中貯留	上田晃	第2日	D	2P09-2P12
7	炭化水素資源の地球化学	早稲田周	第3日	B	3P43-3P49
8	陸域・土壌・水圏生態系の物質循環	高橋善幸	第3日	C	3P01-3P11
9	初級地球のダイナミクスと生命	古川善博	第1日	C	1P18-1P24
10	地球化学と生理学の融合:生体プロセスの研究から地球化学へ	沢田健	第2日	A	2P13-2P16
11	Geofluids:地球内部流体とその役割	岩森光	第1日	E	-
12	マンタル物質の化学とダイナミクス	下田玄	第3日	E	3P50-3P51
13	宇宙惑星化学1:初期太陽系円盤の宇宙化学	横山哲也	第2-3日	C	2P19-2P25
14	同位体効果研究の地球化学への応用	武蔵正明	第2日	E	2P17-2P18
15	宇宙惑星化学2:微惑星形成期から46億年の太陽系史	伊藤元雄	第2日	C	2P26-2P31
16	現世および過去の有機物、微生物、生態系の地球化学	高野淑雄	第1日	D	1P25-1P29
17	水圏環境地球化学	益田晴恵	第3日	A	3P17-3P30
18	大気水圏地球化学(全般)	吉川久幸	第3日	B	3P31-3P39
19	固体地球化学(全般)	伊藤正一	第3日	E	3P52-3P59
20	地球化学のフロンティア	角皆潤	第3日	D	3P60-3P62
21	災害による環境汚染および復興の地球化学	目下勲正志	第1日	C	1P36-1P38
22	学会主催のセッション(地球化学的原子量~新しい原子量の表記とその経緯)	吉田尚弘	第2日	E	-

第1日:9月14日(水)、第2日:9月15日(木)、第3日:9月16日(金)

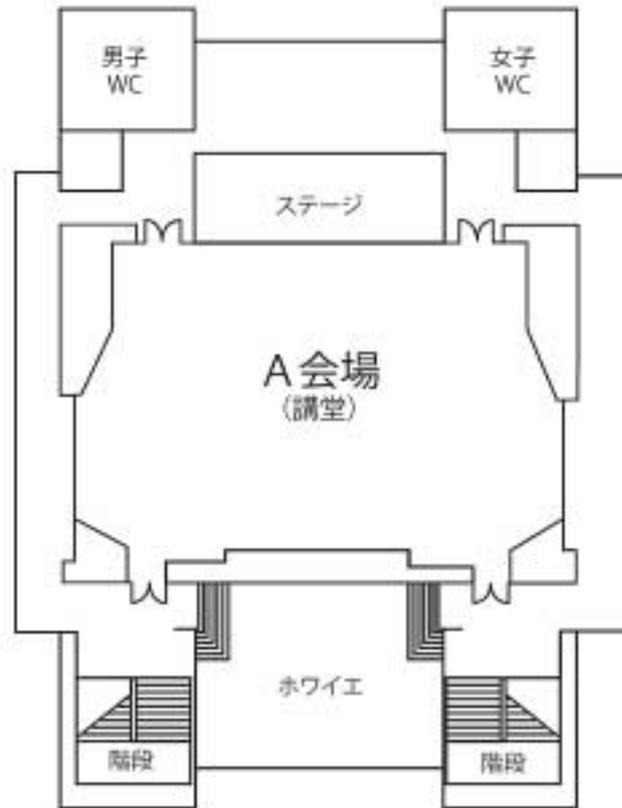
2011年度 日本地球化学会年会 全体タイムスケジュール

月日	会場	時間	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
9月13日(火)	百年記念会館 大会議室	時間												
9月14日(水) 第1日	A 講堂			2 古気候・古環境										
	B 小講堂			1 大気微量成分										
	C 第1会議室			9 初期地球										
	D 第3会議室			3 放射性廃棄物										
	E 第4会議室			11 Geofluids										
9月15日(木) 第2日	F ホール													
	G 環境科学院 D201													
	A 講堂			2 古気候・古環境										
	B 小講堂			5 海洋微量元素・同位体										
	C 第1会議室			15 宇宙化学 2										
9月16日(金) 第3日	D 第3会議室			6 水-岩石相互作用										
	E 第4会議室			14 同位体効果										
	F ホール													
	A 講堂			7 水圏環境										
	B 小講堂			7 炭化水素資源										

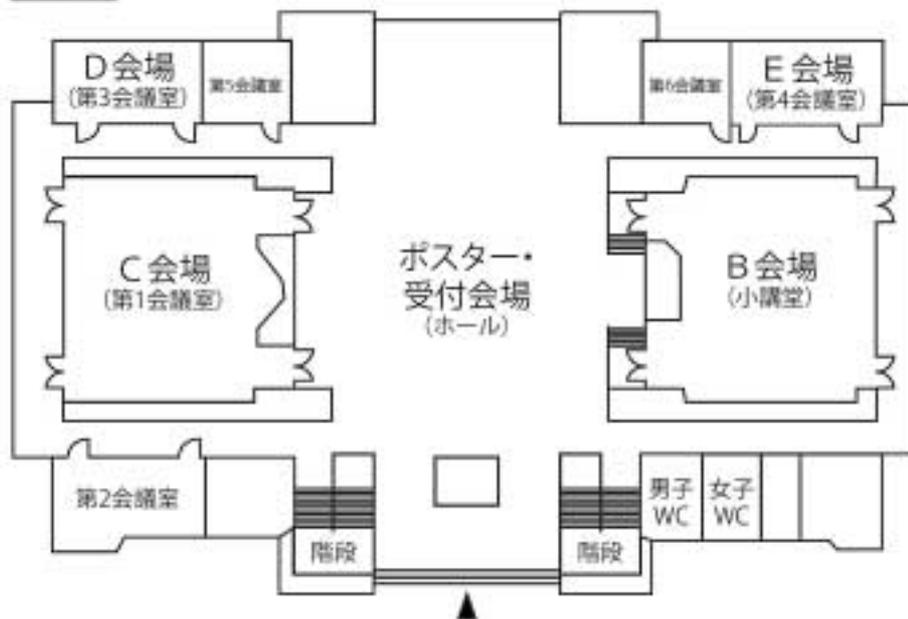
会場A-Eは、学術交流会館
セッション名の前の数字はセッション番号に対応
市民講演会は9月17日(土)13:00-15:00 北海道大学大学院環境科学院D201(G会場)で行われます

年会会場図(学術交流会館)

2階



1階



[A会場]

セッション2 古気候・古環境解析の地球化学

座長: 原田尚美(海洋研究開発機構)・入野智久(北海道大学)・渡邊剛(北海道大学)

9:00-9:30 1A01 (招待)

二枚貝殻の微細成長線を用いた高時間精度環境・生息情報復元(北海道大学) ○宮地鼓

9:30-9:45 1A02

長寿二枚貝 *Arctica islandica* 殻への微量元素取り込みメカニズム(1) 東京大学・2) 北海道大学・3) マインツ大学) ○白井厚太郎¹・宮地鼓²・榎部一成³・Schöne Bernd³

9:45-10:00 1A03

軟体動物殻のアラレ石と方解石の微量元素組成について(1) 慶應義塾大学・2) 産業技術総合研究所・3) 東京大学) ○泉田悠人¹・鈴木淳²・中島礼²・吉村寿哉¹・石村豊穂²・川橋穂高¹・鹿園直雄¹

10:00-10:15 1A04

石筍中の硫酸イオンを用いた長崎県西海市七釜地域における大気汚染変遷の読み取り(1) 九州大学・2) 西海市役所) ○内田章太¹・栗崎弘輔¹・原口聡²・吉村和久¹

10:15-10:30 1A05

陰イオン成分抽出のための穏やかな炭酸塩分解法を用いた GSJ 岩石標準試料の炭酸塩フラクション中の陰イオン分析(九州大学) ○栗崎弘輔・園山幸希・吉村和久

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 1A06

Feasibility of clumped isotopes analysis of land-snails carbonate as a temperature indicator collected from Japan (1) Tokyo Institute of Technology・2) Russian Academy of Science・3) Kanazawa University) ○Vasiliev Mikhail¹・Krivonogov Sergey²・Kashiwaya Kenji³・Yoshida Kenji¹

11:00-11:15 1A07

屋久杉年輪安定同位体を用いた1年毎の古気候復元(1) 東京工業大学・2) 東京大学・3) 名古屋大学) ○小笠博貴¹・阿瀬貴博¹・宮原ひろ子²・力石裕介³・片岡龍峰¹・中塚武³・丸山茂徳¹

11:15-11:30 1A08

放射性炭素年代と年輪年代の関連性: 古気候の記録(名古屋大学) ○中村俊夫・増田公明・三宅美沙・永治健太郎・古光貴裕

11:30-11:45 1A09

紀元前3から紀元4世紀の日本産樹木年輪に記録された炭素14濃度(1) (株)パレオ・ラボ・2) 国立歴史民俗博物館・3) 総合地球環境学研究所) ○尾崎大真¹・伊藤茂¹・丹生越子¹・廣田正史¹・小林龍一¹・藤根久¹・坂本穂²・今村峯雄²・光谷拓実³

11:45-12:00 1A10

グリセロール・ジアルキル・グリセロール・テトラエーテルの組成にもとづく大分県大野川地域の過去10000年間の古環境変遷の復元(1) 北海道大学・2) 京都大学) ○山本康人¹・味岡拓¹・山本正伸¹・竹村直二²

12:00-12:15 1A11

分枝 GDGT 組成を用いた古温度復元法の琵琶湖堆積物への応用(1) 北海道大学・2) 京都大学・3) 同志社大学) ○味岡拓¹・山本正伸¹・竹村直二²・林田明³

12:15-12:30 1A12

過去15万年間の琵琶湖堆積物コア中の植物起源脂肪酸の酸素同位体比記録(1) 北海道大学・2) 旧東京都立大学) ○関率¹・河村公隆¹・石渡良志²

[B会場]

セッション1 大気微量成分の地球化学と相互作用

座長: 谷本浩志(国立環境研究所)・角智潤(北海道大学)・松本深(山梨大学)・持田隆宏(名古屋大学)

9:00-9:30 1B01 (招待)

陸域生態系から放出される揮発性有機化合物(静岡県立大学) ○谷果

9:30-9:45 1B02

北方森林における水溶性有機エアロゾルの季節変動(1) 北海道大学・2) 森林総合研究所) ○宮崎雄三¹・フピンチン¹・河村公隆¹・山野井克己²

9:45-10:00 1B03

バイオマス燃焼で発生する N_2O のアイソトポマー比(東京工業大学) ○豊田榮・下島涼介・山田柱大・吉田尚弘

10:00-10:15 1B04

安定同位体指標を用いた土壌による水素ガスの生成・分解過程について(北海道大学) ○小松大祐・角智潤・中川書子

10:15-10:30 1B05

利尻島における積雪内閉鎖空気中オゾン濃度の変動(1) 北海道大学・2) 国立環境研究所) ○中山桃子¹・吉川久幸¹・廣川淳¹・入野智久¹・兒玉裕二¹・谷本浩志²

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 1B06

北海道落石岬で観測された大気中酸化カルボニルの変動: 二酸化炭素との関連性(国立環境研究所) ○齊藤拓也・横内陽子・橋本茂・向井人史

11:00-11:15 1B07

分光法を利用した大気中の温室効果気体の高精度分析システムの開発(1) 気象研究所・2) 気象庁) ○坪井一寛¹・松枝秀和¹・澤康介¹・丹羽洋介¹・中村登道²・久保池大輔²・齋藤和幸²・大森英裕²・岩坪昇平²・西秀雄²・花宮義和²・辻健太郎²・馬場祐介²

11:15-11:30 1B08

民間貨物商船を用いた太平洋上大気中の一酸化炭素の船上連続観測システム(国立環境研究所) ○奈良英樹・谷本浩志・野尻幸宏・向井人史・町田敏輔・遠嶋康徳

11:30-11:45 1B09

後方追跡線に基づく利尻島大気ラドン-222の時間系列解析について(1) 北海道大学・2) 気象研究所・3) 気象大学校・4) 国立環境研究所) ○朱春茂¹・吉川(井上)久幸¹・松枝秀和²・澤康介²・丹羽洋介²・和田晃³・谷本浩志⁴

11:45-12:00 1B10

大気中ラドンの観測による東アジア地域の微量気体放出量の評価(1) 気象研究所・2) 気象大学校・3) 産業技術総合研究所・4) 国立環境研究所・5) アジア大気汚染研究センター) ○松枝秀和¹・和田晃²・坪井一寛¹・丹羽洋介¹・澤康介¹・村山昌平³・田口彰一³・大原利真⁴・黒川純一⁵

12:00-12:30 1B11 (招待)

領域化学輸送モデルを用いた放射性物質の大気輸送および除去過程の推定(海洋研究開発機構) ○滝川雅之

【C会場】

セッション9 初期地球のダイナミクスと生命
座長: 古川善博(東北大学)・西澤学(海洋研究開発機構)・渋谷岳造(海洋研究開発機構)・大竹翼(東北大学)

9:00-9:15 1001

冥王代研究計画: 最古ジルコンの探索とラブラドル・ネーン岩体の地質調査 (1)東京大学・(2)海洋研究開発機構 ○小宮剛¹・下條将徳¹・山本伸次¹・澤木佑介²・石川晃¹・青木一徳¹

9:15-9:30 1002

西南グリーンランド Itsaq 片麻岩複合岩体における始生代の火成作用に関する地球化学的研究 (1)広島大学・(2)ウーロンゴン大学 ○神市智之¹・日高洋¹・ナットマン アラン²

9:30-9:50 1003 (招待)

Distinct Purine Distribution in Carbonaceous Chondrites (1)NASA Goddard Space Flight Center, (2)The Pennsylvania State University, (3)The Carnegie Institution of Washington, (4)Thermo Fisher Scientific) Michael P. Callahan¹, Karen E. Smith², O.James H. Cleaves³, Ruzicka Josef⁴, Jennifer C. Stern¹, Daniel P. Glavin¹, Christopher H. House², Jason P. Dworkin¹

9:50-10:05 1004

アミノ酸の衝撃実験: 地球外物質によるアミノ酸供給の可能性(名古屋大学) ○菅原泰榮・三村耕一

10:05-10:20 1005

ペプチドの生成および加水分解反応経路に及ぼす金属硫化鉱物の触媒効果(カーネギー研究所) ○大原祥平・コーディ ジョージ

10:20-10:35 1006

バリン重合反応に対する圧力の影響 (1)東北大学・(2)物質材料研究機構) ○古川善博¹・大竹翼¹・中沢弘基²・掛川武¹

<休憩> 10:35-10:50

10:50-11:05 1007

高温環境におけるプロテノイド生成とマイクロフェア形成 (1)福岡工業大学・(2)筑波大学) 金丸博¹・鶴山真美¹・桑原裕典¹・野本信也²・三田肇¹

11:05-11:25 1008 (招待)

深海熱水系における電流発生: テムニーが生命誕生の場になり得る新仮説 (1)海洋研究開発機構・(2)東京大学) ○山本正浩¹・中村龍平²・高嶋敏宏²・加藤創一郎²・橋本和仁²・高井研¹

11:25-11:40 1009

コマチアイトの熱水変質実験による水素発生過程の解明 (1)東京工業大学・(2)海洋研究開発機構) ○古崎もと子¹・渋谷岳造²・鈴木謙彦²・清水健二²・中村謙太郎²・大森聡一¹・高井研²・丸山茂徳¹

11:40-11:55 1010

超好熱メタン生成菌の窒素固定: 金属要求性と窒素同位体システムティクス (1)海洋研究開発機構・(2)東京農工大学) ○西澤学¹・宮崎博一¹・木嶋啓介²・高井研¹

11:55-12:10 1011

カナダ・Lumby Lake 地域における 30 億年前堆積岩の地質学的地球化学的研究(東北大学) ○横田和也・掛川武

12:10-12:25 1012

太古代大気と四種硫黄同位体分別(東京工業大学) ○上野雄一郎・ダニエラテ セバスタヤン

【D会場】

セッション3 放射性廃棄物と地球化学
座長: 日高洋(広島大学)・大貫敏彦(日本原子力研究開発機構)・吉田英一(名古屋大学)・河田陽介(三菱マテリアル)

9:00-9:15 1001

放射性セシウムと長期的挙動: オクロ天然原子炉の例(広島大学) ○日高洋

9:15-9:30 1002

オートラジオグラフィを用いた放射性降下物起源 Cs の植物、土壌中における局所的な分布解析 (1)日本原子力研究開発機構・(2)NPO 法人放射線安全フォーラム) ○大貫敏彦¹・坂本文徳¹・香西直文¹・五十嵐順祐¹・山崎信哉¹・吉田善行¹・田中俊一²

9:30-10:00 1003 (招待)

福島県表層土壌コア試料中の放射性ヨウ素(¹³¹I)及びセシウム(¹³⁷Cs)の深度プロファイル (1)広島大学・(2)福島県農業総合センター) ○田中万也¹・高橋嘉夫¹・坂口綾¹・齋藤隆²

10:00-10:15 1004

腐植物質への希土類元素結合量のサイズ依存性(東京大学) ○角田洋一・齊藤拓巳・長崎晋也

10:15-10:30 1005

流動場分画法と ICP-MS を用いた花崗岩中の地下水におけるコロイドの分析 (1)東京大学・(2)日本原子力研究開発機構) ○小出将志¹・齊藤拓巳¹・長崎晋也¹・山本祐平²・水野崇²

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 1006

過テクネチウム酸のハイドロタルサイトへの吸着に対するフミン酸の影響 (1)武蔵大学・(2)ワシントン州立大学) ○葉袋住孝¹・ウォールナタリ一²

11:00-11:15 1007

結晶質岩系地下環境ニアフィールドにおける地球化学的プロセスとバリア機能 -現状と課題- (名古屋大学) ○吉田英一

11:15-11:45 1008 (招待)

放射性廃棄物の埋設処分における地球化学の活用(日本原燃株式会社) ○佐々木規行・鹿谷守・清水智史

11:45-12:00 1009

幌延深地層研究所における地下施設の建設に伴う深部地下水の地球化学特性変化(日本原子力研究開発機構) ○宮川和也・天野由記・南條功・村上裕晃・越内聡・橋田秀晴・岩月輝希

12:00-12:15 1010

高アルカリ地下水とベントナイトの長期反応に関するナチュラルアナログ研究 (1)慶応義塾大学・(2)原子力環境設備促進・資金管理センター) ○大井真哉¹・鹿園直雄¹・山川聡²・藤井直樹²

12:15-12:30 1011

花崗岩地下水での REE に関する水-岩石反応の解明(日本原子力研究開発機構) ○山本祐平・青才大介・水野崇

12:30-12:45 1012

地下水地球化学データの品質管理-地下水の物理化学パラメータの測定条件に起因する測定誤差-(日本原子力研究開発機構) ○青才大介・萩原大樹・新宮信也・山本祐平・福田朱里・水野崇

【E会場】

セッション11 Geofluids: 地球内部流体とその役割

座長: 岩森光(東京工業大学)・小木曾哲(京都大学)・横山哲也(東京工業大学)

10:00-10:30 1E01 (招待)

スラブ由来の地殻流体と地震発生(東京大学) ○加藤愛太郎

10:30-11:00 1E02 (招待)

堆積物起源スラブから流体への元素溶解過程の解明—三波川帯泥質片岩を対象にして—(食品分析開発センター-SUNATEC・名古屋大学)
○藤原早紀子¹・山本綱志²・三村隼一³

<休憩> 11:00-11:10

11:10-11:25 1E03

1995 神戸地震断層付近の地下水の Li と Sr 同位体研究(海洋研究開発機構・²和歌山工業高等専門学校・³東京大学・⁴千葉大学) ○西尾嘉朗¹・西本真琴²・谷川亘¹・山口飛鳥³・大橋聖和⁴

11:25-11:40 1E04

微量元素・同位体組成からみた地震時の断層における流体岩石相互作用の多様性(海洋研究開発機構・²大阪大学) ○石川剛志¹・廣野哲朗²・本多剛²

11:40-11:55 1E05

台湾チェルンプ断層中央部における Sr 濃集機構の理解(海洋研究開発機構・²広島大学) ○谷水雅治¹・石川剛志¹・高橋高夫²

11:55-12:10 1E06

本邦の酸性泉の地化学性に関する一考察(産業技術総合研究所・²東北大学) ○佐々木宗雄¹・小川泰正²・土屋純芳²

12:10-12:25 1E07

日本国辺の海底熱水鉱床中の硫化鉱物におけるウラン・トリウム放射平衡年代測定(東京大学・²九州大学・³岡山理科大学) ○宮道朝子¹・中井俊一¹・石橋純一郎²・豊田新³・佐藤文寛³

【A会場】

セッション2 古気候・古環境解析の地球化学

座長：原田尚美(海洋研究開発機構)・入野智久(北海道大学)・渡邊剛(北海道大学)

14:30-14:45 1A13

サンゴ骨格の窒素同位体比に記録されるサンゴ礁に流入する陸起源硝酸の季節変動(北海道大学) ○山崎敦子・渡邊剛・角智潤

14:45-15:00 1A14

和歌山県串本の温帯域造礁性サンゴ骨格の酸素・炭素安定同位体比解析—現代と小氷期末の海洋環境とサンゴ骨格成長特性の比較—(北海道大学・東京工業大学・名古屋大学・串本海中公園センター) ○井笠純平・渡邊剛・中村隆志・阿部理・野村恵一

15:00-15:15 1A15

鹿児島県奄美列島より採取されたハマサンゴを用いた過去106年間の東シナ海の環境変動と造礁性サンゴの成長応答(北海道大学・高知大学・国立環境研究所) 河村卓一・渡邊剛・村山雅史・山野博哉

15:15-15:30 1A16

長期飼育ハマサンゴを用いた骨格成長速度が気候指標に与える影響の検討(東京大学・産業技術総合研究所・琉球大学) ○林恵里香・石村豊穂・中村崇・井口亮・岩瀬英啓・酒井一彦・鈴木淳・岡井貴司・川橋穂高

15:30-15:45 1A17

サンゴ骨格中U/Ca比のpH指標としての可能性(東京大学・琉球大学・産業技術総合研究所) ○井上麻夕里・小崎沙織・井口亮・酒井一彦・鈴木淳・川橋穂高

15:45-16:00 1A18

大気へのCO₂流入現象に伴う海洋酸性化・貧酸素化のモデリング(東京大学) ○尾崎和海・田近英一

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:30 1A19

Os isotope and platinum group elements as tracers of bolide impact in Early Cretaceous oceans(海洋研究開発機構・東京大学・ハワイ大学) ○Tejada Maria Luisa・鈴木勝彦・石川晃・野崎達生・仙田量子・Ravizza Gregory・木村純一

16:30-16:45 1A20

石灰質堆積物のクロム同位体組成(海洋研究開発機構) ○黒田潤一郎

16:45-17:00 1A21

硫黄安定同位体組成で推定するペルム紀中-後期境界における海洋環境の変遷(筑波大学・東京大学) ○丸岡照幸・上野昂幹・磯崎行雄

17:00-17:15 1A22

モンゴルの白堊系湖成層に見られる堆積リズムの起源：海洋無酸素事変時の陸域環境変動解明に向けて(北海道大学・茨城大学・金沢大学・早稲田大学・南京地質古生物研究所) ○長谷川精・安藤勇典・長谷川卓・太田亨・山本正伸・長谷部徳子・Li Gang

17:15-17:30 1A23

北太平洋亜寒帯域の過去580万年間の古水温変化(北海道大学) ○小林大祐・山本正伸

17:30-17:45 1A24

IODP 317 次航海ニュージールランド沖大陸棚堆積物における間隙水のMg同位体組成(東京大学・海洋研究開発機構) ○古村寿祐・谷水聖治・川橋穂高

17:45-18:00 1A25

北太平洋表層堆積物中の陸上植物テルペノイドバイオマーカーの起源と輸送過程(北海道大学) ○小林まどか・沢田健・関幸

18:00-18:15 1A26

北大西洋アイルランド沖第四紀海洋堆積物に記録された水銀含有量と石灰質ナノ化石群集(九州大学・環境科学技術研究所・地球環境産業技術研究機構・秋田大学) ○山下剛史・北逸郎・長谷川英尚・千代延俊・佐藤時幸

【B会場】

セッション1 大気微量成分の地球化学と相互作用

座長：谷本浩志(国立環境研究所)・角智潤(北海道大学)・松本深(山梨大学)・持田隆宏(名古屋大学)

14:30-14:45 1B12

モンゴル表層土壌の化学組成的・同位体比的特徴と国内大気降下物との関係(上智大学・気象研究所・農業環境研究所・東京工業大学) ○松本祐介・木川田喜一・大井隆夫・廣瀬勝己・五十嵐康人・藤原英司・野村雅夫

14:45-15:00 1B13

北海道における大気エアロゾル中微量元素の濃度変動について(東海大学・北海道大学・東京大学) ○南秀樹・藤本良太・見波はるか・的場遼人・植松光夫

15:00-15:15 1B14

1964年~2000年の福岡大気降下物の化学組成的特徴(上智大学・東京工業大学) ○赤崎生朗・木川田喜一・大井隆夫・廣瀬勝己・野村雅夫

15:15-15:30 1B15

2009年春季川崎大気粒子状物質中の微量元素の定量とその挙動(東京都市大学・上智大学) ○牧内秋恵・本多照幸・木川田喜一

15:30-15:45 1B16

化学種解析と同位体比測定に基づくエアロゾル中の亜鉛の起源と挙動の解明(広島大学・海洋研究開発機構) ○藤原将智・古川文真・谷水聖治・高橋嘉夫

15:45-16:00 1B17

窒素沈着に与える粒径10μm以上の粒子の寄与(山梨大学) ○松本深

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:45 1B18 (招待)

大気・海洋間の二酸化炭素交換—南大洋—(北海道大学・気象研究所・国立環境研究所・国立極地研究所) ○吉川久幸・龜山宗彦・古田怡・緑川貴・石井雅男・笹野大輔・中岡慎一郎・橋田元

16:45-17:00 1B19

エアロゾル中の鉄化学種及び溶解性の解明：陸域と海洋のエアロゾル中の鉄化学種の比較(広島大学・東京大学) ○古川文真・高橋嘉夫・植松光夫

17:00-17:15 1B20

高生物生産海域における海洋表層水中のDMS分布の制限因子—EI-PTR-MSを用いたDMS連続測定に基づく検討—(北海道大学・国立環境研究所・気象研究所) ○龜山宗彦・谷本浩志・猪俣敏・奥沢和浩・角智潤・石井雅男・笹野大輔・吉川久幸

17:15-17:30 1B21

一次海洋エアロゾルの雲凝結核特性の野外計測(名古屋大学) ○岩本洋子・持田隆宏

17:30-17:45 1B22

海洋大気中のシュウ酸・マロン酸の安定炭素同位体比：夏季におけるδ¹³Cの増加と有機エアロゾルの光化学的エイジング(北海道大学) ○河村公隆・立花英里

17:45-18:00 1B23

硝酸の三酸素同位体組成を指標に用いたM0xの光化学反応過程の解析(北海道大学・北海道立総合研究機構環境科学研究センター・アジア大気汚染研究センター・気象研究所・富山県環境科学センター) ○大山拓也・角智潤・小松大祐・代田里子・中川書子・野口泉・山口高志・佐藤啓市・大泉毅・坪井一寛・木戸瑞佳

【C会場】

セッション21 災害による環境汚染および復興の地球化学
 座長: 南川雅男(北海道大学)・吉田尚弘(東京工業大学)・日下部正志(日本海洋生物環境研究所)・渡邊豊(北海道大学)

14:00-14:25 1C13 (招待)
 福島における原子力発電所事故由来の放射性核種の陸域分布と拡散
 (筑波大学) ○恩田裕一

14:25-14:50 1C14 (招待)
 環境に放出された人工放射性核種の長期挙動(気象研究所) ○青山道夫

14:50-15:15 1C15 (招待)
 東北地方東海岸域の地下水流動資源及び地中熱利用(産業技術総合研究所) ○丸井敦尚・越谷賢・伊藤成輝・内田洋平・小原直樹・古岡真弓

15:15-15:30 1C16
 福島第一原子力発電所事故後の環境放射能調査(日本分析センター) ○池内嘉宏

15:30-15:45 1C17
 福島第一原子力発電所事故による広域的な核種拡散の評価(東京大学) ○小豆川耕晃・小森昌史・野川憲夫・松尾基之

15:45-16:00 1C18
 福島第一原子力発電所事故による人工放射性物質の拡散と環境中の検査評価(弘前大学) ○田淵博文・細田正洋・反町篤行・中田康史・吉田光明・床次真司・山田正俊

<休憩> 16:00-16:15

16:15-16:30 1C19
 水田、畑地、果樹園、森林における放射性セシウム及びヨウ素の深度分布(1 学習院大学・2 福島県相双農林事務所・3 福島県農業総合センター・4 福島県農産物流通課・5 福島県農業総合センター) ○大野剛¹・村松康行¹・三浦吉剛²・鎌田和優³・稲川直也⁴・小川宏¹・山崎敏子⁵・小林智之³・二階堂美行⁴・佐藤陸人⁵・加藤義明⁵

16:30-16:45 1C20
 放射性セシウムの農作物や果樹への移行における転流の重要性(1 学習院大学・2 福島県農業総合センター) ○村松康行¹・大野剛¹・鎌田和優¹・稲川直也¹・遠山知亜紀¹・佐藤守²

16:45-17:00 1C21
 表層土壌に含まれる放射性セシウムの分布とその特徴(弘前大学) ○今温希・鶴見実

17:00-17:15 1C22
 森林生態系内での表層土壌中に含まれる¹³⁷Csの分布(弘前大学) ○大和田愛・鶴見実

17:15-17:30 1C23
 3.11 東北地方太平洋沖地震後に検出された放射性希ガス(1 海洋研究開発機構・2 山形大学・3 北海道総合地質研究所・4 筑波大学・5 京都大学) ○佐藤佳子¹・熊谷英豪¹・岩田尚純²・柴田智郎³・丸岡照幸⁴・山本順司⁵・鈴木勝彦¹・西尾嘉朗¹

17:30-17:45 1C24
 石灰安定処理土の強度とカルシウム量の関係(北海道開発局) ○高村章

【D会場】

セッション16 現世および過去の有機物、微生物、生態系の地球化学
 座長: 大庭雅寛(東北大学)・山口保彦(東京大学)・井尻映(海洋研究開発機構)

14:30-14:55 1D13 (招待)
 ベルム紀末の大量絶滅とその回復期の海洋環境の復元(1 東京大学・2 東北大学・3 宮崎大学・4 宮城大学・5 産業技術総合研究所) ○高橋聡¹・海保邦夫²・山北聡³・大庭雅寛²・掛川武²・渡邊隆広²・山崎慎一²・小川泰正²・木村和彦⁴・土屋純芳²・吉田武義²・坂田将⁵・鈴木紀毅²・永広昌之²

14:55-15:10 1D14
 中期白亜紀海洋無酸素事象における渦巻毛藻の海洋基礎生産への寄与 - 芳香族ジノステロイドによる評価(1 北海道大学・2 東北大学) ○安藤卓人¹・沢田健¹・岡野和貴¹・西弘嗣²・高嶋礼詩²

15:10-15:25 1D15
 前期三畳紀堆積物から検出されたエーテル脂質(東北大学) ○齊藤諒介・大庭雅寛・海保邦夫

15:25-15:40 1D16
 スペイン南部で採取された晩新世/始新世境界堆積物中のエーテル脂質(1 東北大学・2 北海道大学・3 グラナダ大学) ○大庭雅寛¹・山本正伸²・海保邦夫¹・ラモルダ マルコス・A³

15:40-15:55 1D17
 北海道夕張地域、新第三系川端層ハイパービクナイト中の高等植物バイオマーカーの組成分布(1 北海道大学・2 道総研地質研究所) ○風呂田郷史¹・沢田健¹・川上源太郎²

<休憩> 15:55-16:05

16:05-16:30 1D18 (招待)
 アミノ酸窒素安定同位体比を用いた生態系の解析(海洋研究開発機構) ○小川奈々子・カ石嘉人・和田英太郎・大河内直彦

16:30-16:45 1D19
 微生物のアミノ酸窒素同位体組成: 培養実験および海底堆積物への応用(1 海洋研究開発機構・2 東京大学) ○山口保彦¹・高野淑雄¹・カ石嘉人¹・小川奈々子¹・井町寛之¹・菅寿美¹・横山祐典²・大河内直彦¹

16:45-17:00 1D20
 熊野海盆海底泥火山堆積物の生物地球化学的研究(1 海洋研究開発機構・2 琉球大学・3 東京大学・4 東京工業大学・5 北海道大学・6 産業技術総合研究所) ○井尻映¹・土岐知弘²・山口保彦³・川口慎介⁴・服部祥平⁴・踏野祐樹¹・吉田尚弘⁴・角皆潤⁵・中村光一⁶・高井研¹・菅寿一郎⁶・稲垣史生¹

17:00-17:15 1D21
 花崗岩深部の地下水流動特性に依存した硫酸から二酸化炭素還元への微生物呼吸様式のシフト(1 産業技術総合研究所・2 北海道大学・3 金沢大学・4 日本原子力研究開発機構) ○今野祐多¹・小松大祐²・西村園作³・福田朱里⁴・青才大介⁴・水野徹⁴・長尾誠也⁴・角皆潤²・鈴木康平¹

17:15-17:30 1D22
 秋田県北鹿地域に産する泥岩(15-10Ma)中の黄鉄鉱の産状から推定される古日本海低層環境変動(東北大学) ○遠藤美里・山田亮一・大竹翼・掛川武

第1日目(9月14日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール), コアタイム 13:00~14:30

セッション1 大気微量成分の地球化学と相互作用

1P01
横浜における大気中¹³C/¹²Cの変動とその要因(東京工業大学)○張乃忠・山田桂大・吉田尚弘

1P02
札幌エアロゾル中の全炭素・水溶性有機炭素の放射性炭素、および、安定炭素同位体比:春における生物起源有機物の寄与の増加(北海道大学・国立環境研究所)○バブルリ チェンドラ モーリー¹・河村公隆¹・内田昌男²

1P03
西シベリアタイガによるCO₂吸収フラックスの算出と大気CO₂濃度の長期変動解析(2002-2010)(国立環境研究所・地球環境人間フォーラム・北海道大学・ロシア大気光学研究所)○笹川基樹¹・町田敏暢¹・津田憲次²・下山宏³・Arshinov Mikhail⁴・Davydov Denis⁴・Fofonov Aleksandr⁴・Krasnov Oleg⁴

1P04
マイクロ波放射分解法による硝酸塩の三種炭素同位体測定法の開発(東京工業大学)○向高新一・豊田栄・山田桂大・藤井彩子・吉田尚弘

1P05
中央ヒマラヤにおけるエアロゾル中の水溶性有機炭素、ジカルボン酸、ケトン酸、および、 α -ジカルボニルの季節変動(北海道大学)○ヘグデ プラシャント・河村公隆

1P06
東アジアのバックランドサイト・Gosanにおける春季エアロゾル中のクエン酸の濃度増加(北海道大学)○藤野祥・河村公隆

1P07
沖縄辺戸岬で採取したエアロゾル中の低分子ジカルボン酸類の分布と季節変化(北海道大学)○クンワル パガワティ・河村公隆

セッション2 古気候・古環境解析の地球化学

1P08
CO₂ Site1237からみたアンデスの火山活動と気候・海洋変動の関係(北海道大学)○入野智久・山本正伸

1P09
GGT-based proxy approach to paleo-environmental reconstruction in Holocene sediments from the Chukchi-Alaska Shelf in the Arctic Ocean(北海道大学・Ohio State University)○Park Yu-Hyeon¹・山本正伸¹・Polyak Leonid²

1P10
完新世における東アジア冬季モンスーン変動(愛媛大学・高知大学)○佐川祐也¹・鶴岡賢太郎¹・加三千宣¹・村山雅史²・武岡英隆³

1P11
Carbonate clumped isotopes analysis for mollusks collected from paleo-lake Darkhad in Mongolia for a paleo-temperature reconstruction(Tokyo Institute of Technology)○Vasiliev Mikhail¹・Yamada Keita¹・Yoshida Naohiro¹

1P12
過去5000年間に北海道利尻島に飛来した鉛の供給源解析(名古屋大学・海洋研究開発機構・熊本大学)○河野麻希子¹・浅原良浩¹・谷水雅治²・南登代¹・中村俊夫¹・徳野高啓³

1P13
TEX₂₉及びアルケノンから見た中世温暖期における苦小牧沖の古環境変動(愛媛大学)○鶴岡賢太郎・加三千宣・佐川祐也

1P14
石筍を用いた平尾台の古植生情報の抽出(九州大学・大阪経済法科大学・三重県立博物館・九電産業・菊田町教育委員会)○園藤恭代¹・浦田健作²・栗崎弘輔¹・古村和久¹・中川良平³・能登直美⁴・若松善満⁵

1P15
キャビティーリングダウン式分光計による石筍中の流体包有物の酸素・水素同位体比測定(琉球大学)○仲本志志・植村立

1P16
拓洋第5海山に分布するFe-Mnクラスト表面試料のOs同位体比および微量元素組成の地球化学的特徴(東京大学・海洋研究開発機構・高知大学)○得丸純加¹・野崎達生²・鈴木謙彦²・高谷雄太郎¹・藤永公一郎¹・加藤泰浩¹・常青²・浦辺徹郎¹・臼井朗³

1P17
XRDを用いた石英結晶化度測定誤差発生要因の究明と定量化に向けた取り組み(東京大学・岡山理科大学)○島田明典¹・多田隆治¹・福崎裕子¹・豊田新²・吉田知能¹

セッション9 初期地球のダイナミクスと生命

1P18
高温高圧条件下における固体アミノ酸の安定性と重合反応(東北大学・物質・材料研究機構)○大竹翼¹・谷口尚²・古川善博¹・中沢弘基²・掛川武¹

1P19
初期地球環境下リポース生成反応におけるホウ酸の影響(東北大学)○堀内真愛・古川善博・掛川武

1P20
セリウム安定同位体分別に基づく古酸化還元状態の解明(広島大学・海洋研究開発機構)○中田亮一¹・高橋嘉夫¹・谷水雅治²

1P21
初期地球の大気海洋CO₂濃度変動(海洋研究開発機構・東京大学・東京工業大学)○渋谷岳造¹・小宮剛²・高井研¹・丸山茂徳³

1P22
南アフリカ・バーバートン地域の32億年前砕屑性及び化学性堆積岩中にみられる磁鉄鉱とクロム鉄鉱の起源(東北大学)○坂本祐樹・掛川武・大竹翼

1P23
インド、始生代ダールワール岩体、テトラドゥルガ片岩帯における変成堆積岩の炭素・硫黄・酸素・ストロンチウム同位体研究(静岡大学・島根大学・東京工業大学・国立極地研究所・大阪市立大学)○山崎里英¹・エム サティッシュクマール¹・亀井淳志²・中川麻悠子³・上野雄一郎³・外田智千⁴・アブドゥッラ ナシース⁵・吉田尚弘³

1P24
段階燃焼法によって明らかにされた初期原生代有機物窒素同位体比の二相性(東北大学・大阪大学)○石田章純¹・横爪光²・掛川武¹

セッション16 現世および過去の有機物、微生物、生態系の地球化学

1P25
秋田県北座地域黒鉱に伴うケロジェン中の炭素・窒素安定同位体組成(東北大学)○中畑良紀・山田亮一・掛川武

1P26
杉生新田鉱泉の泉質と微生物による鉱化作用(大阪市立大学)○磯山陽子・益田晴恵・前田俊介・西川禎一・小宮透

1P27
H₂-H₂O-CH₄の水素同位体システムティクスから考える微生物由来メタンの水素同位体比決定機構の解明(東京工業大学・海洋研究開発機構)○小林真理子¹・川口慎介²・服部祥平¹・山田桂大¹・上野雄一郎¹・高井研²・吉田尚弘¹

1P28
沖縄トラフの熱水性堆積物中のアミノ酸(大阪市立大学)○瀬田茂司・益田晴恵・磯山陽子

1P29
モンモリロナイトによるグリシンの吸着反応とpH依存性(大阪市立大学)○水野友貴・益田晴恵・磯田圭司

第1日目(9月14日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール), コアタイム 13:00~14:30

セッション3 放射性廃棄物と地球化学

1P30
腐植物質を含む環境試料水の希土類元素定量の検討(上智大学) ○深井恵・木川田基一・大井隆夫

1P31
微生物(酵母とバクテリア)によるサマリウムリン酸塩ナノ鉱物化プロセス(1九州大学・2日本原子力研究開発機構・3広島大学) ○兼明王¹・大貫敏彦²・田中万也³・上石環伍²・宇都宮聡¹

1P32
土岐花崗岩を対象とした水-岩石反応による微量元素の挙動に関する研究(1東京都市大学・2日本原子力研究開発機構) ○萩原武司¹・本多照幸¹・水野崇²

1P33
高レベル放射性廃棄物処分に関わる堆積岩並びにペントナイトの組成に関する研究(1東京都市大学・2日本原子力研究開発機構) ○島潟一文¹・本多照幸¹・岩月輝希²・村上裕晃²・水野崇²

1P34
植物試料中 C-14 同位体比の経年変化に関する研究(1学習院大学・2東京大学・3放射線医学総合研究所) ○井上章¹・村松康行¹・松崎浩之²・吉田聡³

1P35
放射性炭素¹⁴Cによるコンクリートの中性化時期の推定(名古屋大学) ○淺原良浩・雨宮代・丸山一平・吉田英一

セッション21 災害による環境汚染および復興の地球化学

1P36
福島第一原子力発電所事故由来の放射性核種別線量分布(東京大学) ○小森昌史・小豆川勝晃・松尾基之・野川憲夫

1P37
福島原発事故後の東京近郊における大気及び土壌中のγ線核種の解析(東京都市大学) ○本多照幸・小野剛・塚本篤・松野弘貴

1P38
千葉県船橋市の放射線量分布からみた都市部における放射性降下物の挙動(東京慈恵会医科大学) ○箕輪はるか

【A会場】

セッション2 古気候・古環境解析の地球化学

座長: 原田尚美(海洋研究開発機構)・入野智久(北海道大学)・渡邊剛(北海道大学)

9:00-9:15 2A01

沖縄本島西方海域における表層堆積物中有機物 (1北海道大学・2日立協和エンジニアリング・3産業技術総合研究所) ○島村道代¹・佐藤一真²・坂本正志²・坂本拓也³・天野敬子³・荒井晃作³

9:15-9:30 2A02

北部東シナ海コアの古水温からみた過去4万年間の冬季モンスーン変動 (1北海道大学・2東京大学・3産業技術総合研究所) 山本正伸¹・中西貴大¹・岸崎翠¹・入野智久¹・多田隆治²・小田登邦³

9:30-9:45 2A03

過去50万年間の東西赤道太平洋の湧昇強度変化と水塊構造—ナンノ化石種と窒素・炭素同位体比からアプローチ— (1九州大学・2環境科学技術研究所・3地球環境産業技術研究機構・4秋田大学) 松崎哲也¹・水田麻美¹・小島淳¹・北邊郎¹・長谷川美尚²・千代延俊³・佐藤時幸⁴

9:45-10:00 2A04

水期環境変動に対応した東部熱帯太平洋の水温傾度勾配の変化 (北海道大学) ○ビンシャリ・ハスリザル・山本正伸・入野智久

10:00-10:15 2A05

放射性同位体²³⁰Thを用いた過去13,000年間のチリ沖における生物ポンプ能力変化 (1筑波大学・2海洋研究開発機構・3コンセプション大学・4山形大学) ○福田美保¹・原田尚美²・佐藤都³・Carina B. Lange⁴・阿波根直一²・Silvio Pantoja³・川上創²・本山功⁴

10:15-10:30 2A06

南極昭和基地地域の湖底堆積物コア中の有機成分による宗谷海岸の完新世における環境変動の解明 (1大妻女子大学・2静岡県立大学・3鳥取大学・4名古屋大学・5国立極地研究所) ○本多英介¹・谷幸剛²・瀬戸浩二³・中村俊夫⁴・大谷修司⁵・伊村智⁵・井上源喜¹

セッション10 地球化学と生理学の融合: 生体プロセスの研究から地球化学へ

座長: 沢田健(北海道大学)・カ石嘉人(海洋研究開発機構)

10:45-11:05 2A07 (招待)

被子植物の進化における分子古生物学的視点: 高等植物テルペノイドの代謝生理から (北海道大学) ○中村英人

11:05-11:20 2A08

北海道白亜系函館層群富内層の炭層から産出した植物化石のバイオマーカーおよび抵抗性高分子分析 (1北海道大学・2新潟大学) ○池田慧¹・沢田健¹・高橋正道²・中村英人¹

11:20-11:35 2A09

北西太平洋温帯サンゴの石灰化量解析 (1北海道大学・2海洋研究開発機構) ○組康輝¹・渡邊剛¹・坂本竜彦²

11:35-11:50 2A10

バルマ藻培養試料を用いたバイオマーカーの探索: 予察的研究 (1北海道大学・2東北区水産研究所) ○沢田健¹・桑田晃²・小林まどか¹・池田慧¹・加納千紗都¹

11:50-12:05 2A11

アミノ酸の窒素同位体比分析を用いた先史日本人集団の食性復元 (1東京大学・2University of Bristol・3海洋研究開発機構) ○内藤裕一¹・Honoh Noah²・カ石嘉人³・大河内直彦³・米田隆¹

12:05-12:25 2A12 (招待)

生体成分の安定炭素同位体比を使った哺乳類化石研究 (足寄動物化石博物館) ○新村龍也

【B会場】

セッション5 海洋における微量元素・同位体

座長: 蒲生俊敏(東京大学)・宗林由樹(京都大学)・張勁(富山大学)・小畑元(東京大学)

9:00-9:15 2B01

海水中Cu安定同位体比精密測定法の開発 (1京都大学・2海洋研究開発機構) ○高野祥太郎¹・宗林由樹¹・平田岳史¹・谷水雅治²

9:15-9:30 2B02

カソーディックストリッピングボルタンメトリー法を用いた海水内の亜鉛の分析 (東京大学) ○金泰辰・蒲生俊敏・小畑元

9:30-9:45 2B03

橋湾における船上分析法を用いた海水中的鉄(II)の測定 (1東京大学・2長崎大学) ○隘山真¹・小畑元¹・蒲生俊敏¹・武田重信²・兼原善生²

9:45-10:00 2B04

現場型自動分析計による海水中的鉄(II)の測定 (1東京大学・2滋賀県立大学・3高知大学・4紀元電子工業) ○小畑元¹・馬瀬輝¹・隘山真¹・蒲生俊敏¹・丸尾雅啓²・岡村慶³・紀本英志⁴

10:00-10:15 2B05

ベーリング海大陸棚における生物活性微量金属のストイキオメトリー (京都大学) ○宗林由樹・Cid Abigail Parcasio・渡原聖平・南知晴・則末和宏

10:15-10:30 2B06

静岡南方沿岸海域の溶存無機炭素の¹³C濃度変動 (1静岡大学・2東京大学) ○坪井辰哉¹・和田秀樹¹・宗林留美¹・松崎浩之²

10:30-10:45 2B07

インド洋における生体活性微量金属の分布と粒子状物質の関係 (1近畿大学・2東海大学・3京都大学・4東京大学) ○中口謙二¹・谷拓也¹・廣田晶子¹・西田亜希子¹・南秀樹²・山田悠香子²・宗林由樹³・小畑元⁴

10:45-11:00 2B08

インド洋経路観測における溶存鉄濃度の船上分析結果 (1北海道大学・2東京大学・3電力中央研究所) ○西岡純¹・小畑元²・津賀大輔³

11:00-11:15 2B09

ネオジム同位体比から見るインド洋および南大洋表層への陸源物質の供給 (1弘前大学・2日本大学・3東京大学) ○田副博文¹・木村太郎²・井上慶祐³・山形武晴³・永井尚生²

11:15-11:30 2B10

アラビア海における溶存酸素の酸素安定同位体比 $\delta^{18}O$ からみた生物および物理過程 (東京大学) ○中山典子・岡藤・蒲生俊敏

11:30-11:45 2B11

西部インド洋海底堆積物における生物起源成分の南北縦断分布: GEOTRACES KH-09-5 航海 (1東海大学・2近畿大学) ○加藤義久¹・坂本輝¹・田中美菜子¹・山田悠香子¹・南秀樹²・竹内誠²・中口謙二²

11:45-12:00 2B12

機器中性子放射化分析法による海底質標準試料(JMS-1, JMS-2 及び JMS-3)中の微量元素の定量 (群馬大学) ○相澤省一

12:00-12:15 2B13

アカサンゴとシロサンゴの骨軸肥大成長速度 (1弘前大学・2立正大学・3産業技術総合研究所・4放射線医学総合研究所) ○山田正俊¹・岩崎望²・鈴木厚³・鄧建⁴

12:15-12:30 2B14

ケイ藻生物ポンプのデジタルアクション I ケイ藻オパール中の元素濃度の求め方 (九州大学) ○赤木右

【C会場】

セッション15 宇宙惑星化学2: 微惑星形成期から46億年の太陽系史

座長: 伊藤元雄(海洋研究開発機構)・山口亮(国立極地研究所)・山下勝行(岡山大学)・白井直樹(首都大学東京)

9:00-9:15 2001

LL コンドライト中に含まれるアルカリ元素に富む岩片 (1 総合研究大学院大学・2 国立極地研究所・3 岡山大学) ○横山立憲¹・三澤啓司²・岡野修³

9:15-9:30 2002

小惑星表層への太陽風起源希ガス注入過程に関する研究 (1 東京大学・2 北海道大学) ○宮崎達士¹・馬上謙一²・角野浩史¹・山本征生¹・福良哲史¹・鎌裕之¹・長尾敬介¹

9:30-9:47 2003

小惑星イトカワから回収されたレゴリス粒子の3次元構造と外形 (1 大阪大学・2 宇宙航空研究開発機構・3 筑波大学・4 福島工業高等専門学校・5 東北大学・6 高輝度光科学研究センター・7 産業技術総合研究所・8 NASA・9 首都大学東京・10 オーストラリア国立大学・11 九州大学・12 東京大学・13 茨城大学・14 北海道大学) ○土山明¹・上相真之²・松島亙志³・道上達弘⁴・門野敏彦⁵・中村智樹⁶・上杉健太郎⁷・中野司⁸・スコット サンドフォード⁸・野口直⁹・松本徹⁹・松野淳也¹⁰・永野崇¹¹・今井悠太¹¹・竹内晃久¹¹・鈴木芳生¹¹・大神穂純¹¹・片桐洋¹²・海老原充¹²・アイルランド トレバー¹³・北島富美雄¹⁴・長尾敬介¹²・奈良岡浩¹¹・野口高明¹³・岡崎隆司¹¹・坂本尚義¹⁴・ゾレンスキー マイケル⁸・はやぶさキュレーションチーム²

9:47-10:04 2004

小惑星イトカワから回収された粒子の中性子放射化分析 (1 首都大学東京・2 京都大学・3 金沢大学) ○海老原充¹・関本俊²・白井直樹³・浜島靖典³・山本政博³・鹿谷和也¹・大浦泰嗣¹

10:04-10:21 2005

小惑星イトカワの酸素同位体組成, 26Al 初生存在度, 微量元素組成 (1 北海道大学・2 大阪大学・3 神戸大学・4 ANU・5 NASA・6 東北大学・7 茨城大学・8 東京大学・9 首都大学東京・10 九州大学・11 宇宙航空研究開発機構) ○坂本尚義¹・伊藤正一¹・坂本直哉¹・小林幸雄¹・橋爪光²・土山明²・瀬戸雄介³・Ireland T. R.⁴・Zolensky M.⁵・中村智樹⁶・野口高明⁷・長尾敬介⁸・海老原充⁹・奈良岡浩¹⁰・岡崎隆一¹¹・北島富美雄¹¹・向井利典¹¹・藤村彰夫¹¹・安部正真¹¹

<休憩> 10:21-10:30

10:30-10:50 2006 (招待)

原始太陽系星雲内での水微惑星の熱進化 (1 東北大学・2 九州大学) ○植田茂¹・関谷実²

10:50-11:10 2007 (招待)

アングライト隕石中のリン酸塩鉱物から得た H 同位体比初生値 (1 首都大学東京・2 フロリダ州立大学) ○白井直樹¹・フマユン ムニア²

11:10-11:25 2008

ユークライト中ジルコンの希土類元素パターン (国立極地研究所) ○菊池麻希子・山口亮・堀江憲路

11:25-11:40 2009

隕石有機物の高速衝突変性に関する赤外・ラマン顕微分光研究 (1 大阪大学・2 金沢大学・3 高輝度光科学研究センター・4 宇宙航空研究開発機構・5 東京薬科大学・6 長岡技術科学大学・7 福岡工業大学・8 横浜国立大学) ○緒方雄一朗¹・藤田ひかる¹・中嶋祐¹・奥平恭子²・森脇太郎³・池本夕佳³・長谷川直⁴・田端誠⁴・横堀伸一⁵・今井榮一⁶・橋本博文⁴・三田望⁷・小林憲正⁸・矢野朗⁴・山下雅道⁴・山岸明彦⁸・たんぽぽワーキンググループ⁴

セッション13 宇宙惑星化学1: 初期太陽系円盤の宇宙化学

座長: 横山哲也(東京工業大学)・伊藤正一(北海道大学)・横省吾(東京大学)

11:40-12:00 2010 (招待)

超高感度極微量質量分析システム "LINAS" の開発 (1 北海道大学・2 九州大学・3 大阪大学・4 日本電子) ○江端新吾¹・馬上謙一¹・内野喜一郎²・石原盛男³・糸瀬悟⁴・松谷幸⁴・工藤政都⁴・坂本尚義¹

12:00-12:15 2011

超高感度極微量質量分析システムを用いた希ガス同位体分析 (1 北海道大学・2 九州大学・3 大阪大学・4 日本電子) ○馬上謙一¹・江端新吾¹・内野喜一郎²・石原盛男³・糸瀬悟⁴・松谷幸⁴・工藤政都⁴・坂本尚義¹

12:15-12:30 2012

エフレモフカ CV3 コンドライト中 Fluffy Type A CAI の岩石学的記述とメリライトの酸素同位体組成 (北海道大学) ○川崎敏行・坂本直哉・坂本尚義

12:30-12:45 2013

Vigarano 隕石中 Fluffy Type A CAI におけるメリライト単結晶の逆累帯構造に対応した酸素同位体ゾーニング (北海道大学) ○片山樹里・伊藤正一・坂本尚義

【D会場】

セッション6 水-岩相互作用: 水質形成~CO₂ 地中貯留
 座長: 上田晃(富山大学)、鹿園直建(慶應義塾大学)、祖條正夫(産業技術総合研究所)

9:00-9:30 2D01 (招待)

長岡 CO₂ 圧入実証サイトにおける地化学トラップの証拠(地球環境産業技術研究機構) ○三戸彩絵子・朝原友紀・藤白求

9:30-9:45 2D02

二酸化炭素地中貯留における貯留時間推定のための溶解反応速度定数算出方法の検討(慶應義塾大学・東京大学) ○片山智弘¹・鹿園直建¹・高谷雄太郎²・加藤泰浩²

9:45-10:00 2D03

CO₂ 地中貯留を模擬した炭酸泉における炭酸塩現場反応速度の測定(産業技術総合研究所) ○祖條正夫・佐々木宗建

10:00-10:15 2D04

玄武岩-水反応の溶解速度定数支配要因(慶應義塾大学) ○鹿園直建・片山智弘・小山竜志

10:15-10:30 2D05

CO₂ ハイドレートの生成熱を考慮した地層へのCO₂ 注入に関する室内実験の結果(電力中央研究所) ○池川洋二郎・宮川公雄・鈴木浩一・窪田健二

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 2D06

⁸⁷Sr/⁸⁶Sr, δ¹⁸O およびδ¹³C が示す石灰質砂岩炭酸塩の生成過程(名古屋大学・地球環境産業技術研究機構) ○南雅代¹・田中剛¹・竹内誠¹・三戸彩絵子²

11:00-11:15 2D07

宮崎県富高鉱山における地下水の涵養・流出と水質形成のモデル化(三菱マテリアルテクノ・富山大学・和歌山大学・東北大学・石油天然ガス・金属鉱物資源機構) ○富山真吾¹・山口耕平¹・上田晃²・井伊博行²・相川良雄³・目次英哉⁴・小泉由起子⁵・北井亜希子¹

11:15-11:30 2D08

ジオリアクター: 高温地帯へのCO₂ 注入・固定化研究(富山大学・京都大学・三菱マテリアルテクノ・電源開発・地熱技術開発・電力中央研究所・地球環境産業技術研究機構) ○上田晃¹・柳丞烈²・小澤晃子³・杉山和稔³・佐藤久夫⁴・戸高法文⁴・阿島秀司⁴・佐藤龍也⁵・海江田秀志⁶・伊藤久敏⁶・三戸彩絵子⁷

11:30-11:45 2D09

高温下カラム試験における炭酸塩鉱物の透水性評価(京都大学・富山大学・三菱マテリアルテクノ) ○柳丞烈¹・上田晃²・小澤晃子³・杉山和稔³・水戸義忠³・松岡俊文³

11:45-12:00 2D10

簡易で汎用性の高い鉱物反応試験法(ミネラルセンサー)(電力中央研究所・富山大学・三菱マテリアルテクノ・中央開発) ○伊藤久敏¹・海江田秀志¹・上田晃²・小澤晃子³・銀治義和⁴

【E会場】

セッション14 同位体効果研究の地球化学への応用
 座長: 武蔵正明(首都大学東京)、野村雅夫(東京工業大学)、大井隆夫(上智大学)

9:00-9:15 2E01

ホウ素同位体効果の圧力影響に関するクロマトグラフ実験(上智大学・首都大学東京・東京大学) 市川寛之¹・武蔵正明²・松尾基之³・大井隆夫¹

9:15-9:30 2E02

高圧含水相の圧力応答に見られる同位体効果(東京大学・日本原子力研究開発機構) ○銀裕之¹・飯塚理子¹・小松一生¹・佐野亜沙美²

9:30-9:45 2E03

熱水ブルーム中のメタン酸化におけるメタンの水素同位体分別(北海道大学・産業技術総合研究所) ○佐藤晋太郎¹・角皆潤¹・中川書子¹・小松大祐¹・亀山京彦¹・今野裕多²

9:45-10:00 2E04

火山ガスブルーム中の水素の水素同位体比を指標に用いた火山噴気の遠隔温度測定法開発(北海道大学) ○角皆潤・神村泰恵・安齊沙耶・中川書子・小松大祐

10:00-10:30 2E05 (招待)

同位体分別作用に現れる核体積効果の発見(東京工業大学) ○藤井靖彦

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 2E06

SO₂ の光解離における波長依存同位体分別(東京工業大学・コペンハーゲン大学) ○ダニエラチエ・セバスチアン¹・服部祥平¹・上野雄一郎¹・吉田尚弘¹・ジョンソン マシュー²

11:00-11:15 2E07

酸化カルボニルの光解離反応における波長依存同位体分別、その理論的理解と大気への応用(東京工業大学・コペンハーゲン大学) ○服部祥平¹・ダニエラチエ・セバスチアン¹・ジョンソン マシュー²・シュミット ヨハン²・キャラガード ヘンリック²・豊田栄¹・上野雄一郎¹・吉田尚弘¹

11:15-11:30 2E08

始生代堆積岩中イオウ種の異常同位体分別: "傾き1の謎"(九州大学・ネバダ大学) ○奈良岡浩¹・森絵絵美¹・ポールソン サイモン²

学会主催セッション:
 地球化学的原子量~あたらしい原子量表記とその経緯

11:30-12:00 2E09

原子量の歴史と地球化学(首都大学東京) ○海老原充

12:00-12:30 2E10

原子量の「変動範囲」導入と IUPAC 原子量委員会(国立科学博物館) ○米田成一

第2日目(9月15日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール), コアタイム 12:45~14:15

セッション5 海洋における微量元素・同位体

2P01
2010年における日本海直層水中の溶存無機炭素 14 濃度 (1) 海洋研究開発機構・(2) 国立環境研究所・(3) 富山大学 ○熊本雄一郎¹・荒巻能史²・田中伸一²・張勳³

2P02
日本海における溶存セレン分子種と生物起源ケイ素との関係 (近畿大学) ○西内明・中口謙・竹内誠

2P03
日本海における生体活性微量元素の鉛直分布 (1) 近畿大学・(2) 京都大学 ○坂本敏史¹・中口謙¹・竹内誠¹・宗林由樹²・Vu Thi Dieu Huong²・高野祥太郎²

2P04
大和海岸及び大和海岸堆積物の起源並びに堆積環境に関する研究 (東京都市大学) ○中村祥平・本多照幸

2P05
日本海海底堆積物及び炭酸塩ノジュール中の Cl, Br, I の分析 (1) 学習院大学・(2) 東京大学・(3) 群馬大学 ○関谷朋子¹・村松康行¹・安齋博哉¹・松本良²・戸丸仁²・相沢省一³

2P06
海底熱水及び温泉水中のヨウ素の濃度と化学種の分析 (1) 東京大学・(2) 海洋研究開発機構・(3) 長崎大学 ○岡部宣章¹・菊生俊敬¹・小畑元¹・川口慎介²・武田重信³

2P07
モリブデンおよびタングステンの水溶性性及びその酸化還元環境の影響 (1) 広島大学・(2) 海洋研究開発機構・(3) 九州大学 ○大森恵理子¹・高橋嘉夫¹・船原照彦²・横山由佳¹・三好陽子³・川口慎介²・石橋純一郎³

2P08
北西太平洋で採取されたマンガンクラストの Nd 同位体比の時代変化—鉛同位体比の変化との比較— (東京大学) ○天川裕史

セッション6 水—岩石相互作用: 水質形成~CO₂ 地中貯留

2P09
高 CO₂ 流体・高温流体採取及び鉱物-水反応試験用地化学サンブラーの開発 (1) 三菱マテリアルテクノ・(2) 富山大学 ○小澤晃子¹・杉山和稔¹・佐藤文孝¹・島山善弘¹・佐藤久夫¹・上田晃²

2P10
岩石-CO₂ 反応予測シミュレーションによる雄勝高温岩体での CO₂ 注入試験の解析 (1) 地熱技術開発株式会社・(2) 富山大学・(3) 電力中央研究所・(4) 地球環境産業技術研究機構 ○佐藤龍也¹・上田晃²・海江田秀志³・三戸彩絵子⁴

2P11
ジオリアクター: CO₂ 鉱物固定高温実験シミュレーション (1) 電源開発株式会社・(2) ローレンス・バークレイ国立研究所・(3) 富山大学・(4) 三菱マテリアルテクノ株式会社・(5) 地球環境産業技術研究所 ○戸高法文¹・阿島秀司¹・許天福²・上田晃³・小澤晃子⁴・三戸彩絵子⁵

2P12
オマーン北部地域地下水・河川水の同位体研究 (1) 富山大学・(2) 京都大学・(3) 北海道大学 ○上田晃¹・柴田知之²・Python Marie³・芳川雅子²・佐藤務³

セッション10 地球化学と生理学の融合: 生体プロセスの研究から地球化学へ

2P13
アミノ酸の分子内炭素安定同位体比測定 (東京工業大学) ○奥野峻徳・山田柱大・Gilbert Alexis・李娜・吉田尚弘

2P14
植物由来のアセトアルデヒドの分子内同位体分布に与えるエタノール酸化経路の影響 (1) 東京工業大学・(2) キリンググループオフィス株式会社 ○李娜¹・山田柱大¹・服部良太²・柴田裕樹¹・Gilbert Alexis¹・吉田尚弘¹

2P15
茶葉内テアニンの炭素安定同位体比測定 (1) 東京工業大学・(2) 野菜茶葉研究所 ○ニッマンウチボン・タリン¹・山田柱大¹・吉田尚弘¹・角川修²

2P16
ハプト藻における長鎖アルケノン生合成の研究: 地球化学的視点から (1) 北海道大学・(2) 筑波大学 ○中村英人¹・沢田健¹・加納千紗都¹・白岩善博²・鈴木石根²

セッション14 同位体効果研究の地球化学への応用

2P17
酸化カルボニルの酸素ラジカル(O(3P))による分解時間同位体分別 (1) 東京工業大学・(2) コペンハーゲン大学 ○服部祥平¹・ジョンソン マシュー²・シュミット ヨハン²・フォレキャスト ロズリン²・ダニエラ エセバスタアン¹・吉田尚弘¹

2P18
河川水のリチウム同位体比に関する考察—ガンジス・ブラマプトラ水系を例に— (1) 東京大学・(2) 海洋研究開発機構・(3) 科学技術大学・(4) 産業技術総合研究所 ○荒岡大輔¹・西尾嘉朗²・真中卓也¹・牛江裕行¹・ザキール ホサイン ジョシュア¹・鈴木淳⁴・川崎穂高¹

セッション13 宇宙惑星化学1: 初期太陽系円盤の宇宙化学

2P19
Type B CAI の局所 Al-Mg 同位体分布: 部分熔融と年代の関係 (1) 北海道大学・(2) シカゴ大学 ○伊藤正一¹・サイモン スティーブン²・グロスマン ローレンス²・根本尚義¹

2P20
CO コンドライト隕石中の CAI の Al-Mg, Be-B 年代学 (1) 東京工業大学・(2) 東京大学 ○明星邦弘¹・横山哲也¹・佐野有司²・高畑直人²・杉浦直治²

2P21
TIMS 中で起きる Pb の異常な質量分別 (東京工業大学) ○森智比古・横山哲也

2P22
岩石標準試料及び隕石の ²³⁸U/²³⁵U 同位体比測定 (東京工業大学) ○渡辺龍哉・横山哲也

2P23
N-TIMS による始原的隕石中テルルの同位体異常の探索 (東京工業大学) ○深海誠介・横山哲也

2P24
始原的隕石のストロンチウム安定同位体比分析 (東京工業大学) ○奥井航・横山哲也

2P25
TIMS を用いた超高精度 Nd 同位体比測定法の開発 (東京工業大学) ○高橋宏和・横山哲也

セッション15 宇宙惑星化学2: 微惑星形成期から4.6億年の太陽系史

2P26
高温変成作用による微量元素の移動について—ユークライト隕石の加熱実験からの考察— (1) 国立極地研究所・(2) 東京大学・(3) 海洋研究開発機構・(4) 首都大学東京 ○山口亮三¹・河内岳²・伊藤元雄³・白井直樹⁴・海老原充⁴

2P27
隕石中の極微量 ¹⁴C 抽出装置の開発 (立正大学) ○横野菜瑠香・福岡孝昭

第2日目(9月15日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール),コアタイム 12:45~14:15

2P28

ユークライト隕石中のジルコンの化学的特性(広島大学)○豊田和代・
神市智之・日高洋

2P29

南極ドームFuji 切削氷中 Ir 含有量から得た現在、5千年前、12万年
前の宇宙塵の降下量(1立正大学・2青山学院大学・3茨城大学・4国立
極地研究所)○三浦亜由美¹・斉藤裕子²・田澤雄二¹・福岡孝昭¹・野
口高明³・本山秀明⁴

2P30

OK コンドライト隕石中の白金族元素の局所分析(広島大学)○山口
祥・日高洋

2P31

隕石母天体の熱史の解明(海洋研究開発機構)○伊藤元雄

総会

14:15-15:45

受賞講演

15:45-16:05 2J01 (奨励賞)

窒素同位体比および物質循環モデルを用いた海洋窒素循環に関する研究

○吉川知里(東京工業大学)

16:05-16:25 2J02 (奨励賞)

地球化学と微生物学の結合による生元素循環の進化に関する研究

○西澤学(海洋研究開発機構)

16:25-16:45 2J03 (奨励賞)

同位体記録が語る白亜紀温室地球の世界

○黒田潤一郎(海洋研究開発機構)

16:45-17:05 2J04 (功労賞)

炭素14測定法の確立とその適用による多様な学術分野への貢献

○中村俊夫(名古屋大学年代測定総合研究センター)

17:05-17:35 2J05 (学会賞)

大気中の揮発性有機化合物の動態に関する地球化学的研究

○横内陽子(国立環境研究所環境計測研究センター)

【A会場】

セッション17 水圏環境地球化学

座長: 益田晴恵(大阪市立大学)・張勁(富山大学)・板井啓明(愛媛大学)・高橋嘉夫(広島大学)・太田充恒(産業技術総合研究所)

<俊竹洋先生記念シンポジウム> (3A01~3A08)

9:00-9:15 3A01

地下水利用に対する提言へ向けた水文学的調査(1富山県環境科学センター・2富山大学)○溝口俊明¹・張勁²・中邑盛¹・松本卓大¹

9:15-9:30 3A02

富士山麓湧水の水質について(1東海大学・2富山大学)○丹下佑美子¹・木下真孝¹・成田尚史¹・張勁²

9:30-9:55 3A03 (招待)

沿岸を含む流域規模での火山性岩盤地下水流動の実態把握(熊本大学)○嶋田純

9:55-10:10 3A04

¹⁰, ¹⁸O, ¹⁵N をトレーサーに用いた陸水環境における溶存硫酸の起源および窒素循環の解析法(1北海道大学・2東北大学・3東京大学・4弘前大学)○中川壽子¹・鈴木敏之¹・大山拓也¹・小松大祐¹・角皆潤¹・梅田昌²・柴田英昭¹・小畑元³・田副博文⁴

10:10-10:25 3A05

黄東亜海域における DIN 添加による海藻類の TN および δ¹⁵N の変化(1北海道立総合研究機構・2北海道大学)○栗林貴範¹・赤池章一¹・門谷茂²・南川雅男²

<休憩> 10:25-10:30

10:30-10:55 3A06 (招待)

トレーサーを組み込んだ地下水流動モデル(信州大学)○中屋真可

10:55-11:10 3A07

ヘリウム同位体と放射性塩素同位体を用いた高塩濃度深層地下水の年代推定に向けた研究(産業技術総合研究所)○森川徳敏・風早康平・戸崎裕貴

11:10-11:25 3A08

乗鞍高原における積雪の連続観測による雪水化学研究(信州大学)○鈴木啓助・高橋広樹

<休憩> 11:25-10:30

11:30-11:50 3A09 (招待)

山岳アイスコアから推定した大気由来鉄の沈着量と降水への溶解度(北海道大学)○的場澄人・佐々木央臣・白岩孝行

11:50-12:05 3A10

炭酸塩堆積物トッファに記録されたヒ素とリテウム濃度の共変化(国立成功大学)○堀真子・游鎮輝・鍾全雄

12:05-12:20 3A11

化学種解析に基づくタリウムの水・土壌・堆積物間での分配挙動解明(1広島大学・2産業技術総合研究所)○渡辺勇輔¹・東郷洋子²・高橋嘉夫¹

12:20-12:35 3A12

中国恩施地域のセレン汚染土壌中のセレンのスペシエーション(1中国科学院地球化学研究所・2広島大学・3中国科学院高能物理研究所)○秦海波¹・朱建明¹・梁良¹・高橋嘉夫²・鄭黎榮³

【B会場】

セッション7 炭化水素資源の地球化学

座長: 早稲田周(石油資源開発)・坂田将(産業技術総合研究所)・鈴木徳行(北海道大学)

9:00-9:15 3B01

粘土質岩と珪質泥岩での熟成作用にともなう芳香族炭化水素の水素同位体組成の変化(北海道大学)○西村幸恵・鈴木徳行・松本公平・菊地徹

9:15-9:30 3B02

原油の熟成過程における希土類元素の分配(1広島大学・2地球科学総合研究所・3石油資源開発)○中田亮一¹・加藤進²・早稲田周³・奥村文章³・高橋嘉夫¹

9:30-9:45 3B03

バングラデシュ国 Surma 堆積盆地の原油とコンデンセート(1(株)地球科学総合研究所・2三井石油開発㈱)○武田信従¹・加藤進¹・藤原昌史²

9:45-10:00 3B04

インドネシア、カンゲアン盆地原油の起源と原油-凝縮岩対比(石油資源開発(株))○西田英毅・早稲田周・丸裕二

10:00-10:15 3B05

北海道古第三紀重層頁岩に含まれる気体の化学組成とその安定同位体比(北海道大学)○高橋幸士・鈴木徳行・齋藤裕之

10:15-10:30 3B06

ヘッドスペースガス法を用いた炭化水素の地表地球化学探査(1石油資源開発(株)・2(株)地球科学総合研究所)○早稲田周¹・岩野裕規¹・奥村文章¹・稲葉充¹・加藤進²

<休憩> 10:30-10:45

10:45-11:00 3B07

沼ノ端 SK-100 坑井より得たカッティングス石炭試料中の熱分解炭化水素ガスの炭素同位体組成(北海道大学)○齋藤裕之・鈴木徳行・高橋幸士

11:00-11:30 3B08 (招待)

メタン生成古細菌による地下圏メタン生成活動(産業技術総合研究所)○鎌形洋一

11:30-11:45 3B09

南関東ガス田におけるメタン生成活性とメタン生成ポテンシャル(産業技術総合研究所)○吉岡秀佳・持丸華子・坂田将・鎌形洋一

11:45-12:00 3B10

水溶性天然ガスの炭素同位体比から推定される微生物による海底下でのメタン生成システム(産業技術総合研究所)○金子信行

12:00-12:15 3B11

地下メタン資源の起源に関するカーナビ時代の伊能忠敬的研究(海洋研究開発機構)○川口慎介

【C会場】

セッション8 陸域・土壌・水圏生態系の物質循環
 座長: 瀬戸蘭美(奈良女子大学)・和田茂樹(筑波大学)・高橋善幸(国立環境研究所)・杉本敦子(北海道大学)

- 9:00-9:15 3C01
 南大洋における植物プランクトン群集が海面 pCO₂ に与える影響 (1) 北海道大学・(2) 国立極地研究所) ○高尾信太郎¹・平澤享¹・橋田元²・吉川久幸¹・鈴木光次¹
- 9:15-9:30 3C02
 2010年春季親潮硅藻ブルーム期における透明細胞外重合体粒子(TEP)分布の特徴 (1) 北海道大学・(2) 東北区水産研究所・(3) 東京大学) ○野坂裕一¹・鈴木光次¹・山下洋平¹・齋藤宏明²・高橋一生³
- 9:30-9:45 3A03
 昼光強度と炭素濃度による海洋腐植物質の光化学反応の評価 (1) 国立環境研究所・(2) 筑波大学・(3) 気象研究所) ○大森裕子¹・濱健夫²・石井雅男³
- 9:45-10:00 3C04
 重船負荷による海洋微生物食物網並びに溶解有機炭素分解に対する影響予測 (1) 奈良女子大学・(2) 筑波大学) ○瀬戸蘭美¹・和田茂樹²
- 10:00-10:15 3C05
 ダム湖による河川炭素/栄養動態の変化 (1) 東京大学・(2) 産業技術総合研究所) ○牛江裕行¹・川崎穂高¹・鈴木淳²・長尾正之²・稲村明彦²
- 10:15-10:30 3C06
 沿岸のDOMプールに対する海藻と河川の寄与の比較 (筑波大学) ○和田茂樹・濱健夫
- <休憩> 10:30-10:45
- 10:45-11:00 3C07
 植物体内に含まれる硝酸に見つかった三酸素同位体異常 (北海道大学) ○鈴木敦之¹・角皆潤¹・中川書子¹・小松大祐¹・柴田英昭¹・福澤加里部¹
- 11:00-11:15 3C08
 植物体中の希土類元素から推定する無機元素の起源および分別 (1) 九州大学・(2) 東京農工大学) ○高田理恵¹・赤木右¹・三浦智洋²
- 11:15-11:30 3C09
 堆肥切り返し後の顕著な N₂O 排出は堆肥表層の脱窒菌によって生産される (1) 農業研究機構・(2) 東京工業大学) ○前田高輝¹・豊田栄²・花島大¹・森岡理紀¹・長田隆¹・吉田尚弘²
- 11:30-11:45 3C10
 簡易渦集積法によるカラマツ林のテルペン類フラックス測定 (1) 静岡県立大学・(2) 大阪府立大学・(3) 国立環境研究所) ○望月智貴¹・安田倫己¹・植山登仁²・高橋善幸³・三枝信子³・谷晃¹
- 11:45-12:00 3C11
 東シベリア タイガーツンドラ境界域におけるメタンフラックス (1) 北海道大学・(2) ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所) ○新宮原諒¹・直野真也¹・岩花剛¹・トロフィーム マキシモフ²・杉本敦子¹
- 12:00-12:15 3C12
 国内4地点の森林における土壌有機物の分解性の比較 (1) 名古屋大学・(2) 日本原子力研究開発機構・(3) 森林総合研究所) ○守屋耕一¹・小嵐淳²・安藤麻里子²・森泉純¹・山澤弘実¹・石塚成宏³
- 12:15-12:30 3C13
 東シベリアタイガ林の大気水蒸気同位体比と領域スケールの水蒸気フラックスの変動 (北海道大学) ○上田哲大・杉本敦子

【D会場】

セッション20 地球化学のフロンティア
 座長: 角皆潤(北海道大学)・赤木右(九州大学)・北川浩之(名古屋大学)

- 9:30-9:45 3D01
 BaSO₄/水溶液系における REE 分配係数の温度変化 (10~200°C): 固相 REE3+の結合状態変化と分配反応の ΔH[‡] と ΔS[‡] の四相効果 (名古屋大学) ○川邊岩夫・奥村友幸
- 9:45-10:00 3D02
 レーザーアブレーション-ICP 質量分析法を用いた局所化学形態分析の試み (1) 京都大学・(2) 東京大学) ○平田岳史¹・牧賢志¹・横山隆臣¹・岡林謙起¹・折橋裕二²
- 10:00-10:15 3D03
 液中レーザーアブレーション法(LAL)を用いた普通コンドライトに含まれる風化生成物中の鉄同位体比測定 (1) 京都大学・(2) 東京工業大学) ○岡林謙起¹・横山隆臣¹・横山哲也²・平田岳史¹
- 10:15-10:30 3D04
 微小炭酸塩安定同位体比定量法のクロマグロ仔魚耳石への応用 (産業技術総合研究所) ○石村豊穂・鈴木淳
- <休憩> 10:30-10:45
- 10:45-11:00 3D05
 ミズゴケに保持された水の同位体的特徴 (1) 九州大学・(2) Gothenburg University) ○大木誠吾¹・舞野宏宙¹・赤木右¹・Franzen Lars²
- 11:00-11:15 3D06
 死海深層掘削プロジェクト: 現状と今後の展開 (1) 名古屋大学・(2) 国際日本文化研究センター) ○北川浩之¹・長澤重信¹・安田善憲²
- 11:15-11:30 3D07
 礼文島浜中2遺跡出土土器を用いた古食性復元 (1) 名古屋大学・(2) 国際基督教大学・(3) ブリストル大学) ○宮田佳樹¹・堀内晶子²・Cramp Lucy³・南登代¹・中村俊夫¹・Evershed Richard³
- 11:30-11:45 3D08
 地球化学のフロンティアを支援する ウェブサイトと文具型材の開発 (愛知教育大学) ○佐々田俊夫

【E会場】

セッション19 固体地球化学(全般)

座長: 伊藤正一(北海道大学), 坂本直哉(北海道大学)

10:45-11:00 3E01

国産辰砂(硫化水銀)の水銀同位体組成(国立環境研究所) ○武内章記・南武志

11:00-11:15 3E02

地球化学図と地名との関連性Ⅱ-流域解析を用いた比較- (名古屋大学) ○永峰康一郎・岡島知佑

11:15-11:30 3E03

中央海嶺からの硫黄、フッ素、臭素のフラックスの見積もり (1 東京大学・2 海洋研究開発機構) ○鹿兒島涉悟¹・佐野有司¹・高畑直人¹・藤道永¹・天川裕史¹・熊谷美彦²

11:30-11:45 3E04

河川堆積物試料の粒産別 ⁸⁷Sr/⁸⁶Sr 同位体比 (名古屋大学) ○城森由佳・南登代・鈴木和博

11:45-12:00 3E05

親鉄性元素分析のための金属質標準試料の合成 (1 京都大学・2 東京工業大学・3 海洋研究開発機構) ○横山隆臣¹・今井崇輔²・鈴木敏弘³・横山哲也²・高橋栄一²・竹山雅夫²・平田岳史¹

12:00-12:15 3E06

フェムト秒レーザーアブレーション ICP-MS を用いた超微粉末ベレット全岩組成分析法の開発 (1 産業技術総合研究所・2 京都大学) ○昆廣明¹・高木哲一¹・平田岳史²

【A会場】

セッション17 水圏環境地球化学

座長: 益田晴恵(大阪市立大学)・張勁(富山大学)・板井啓明(愛媛大学)・高橋嘉夫(広島大学)・太田充恒(産業技術総合研究所)

14:30-14:45 3A13

ヒ素汚染帯水層堆積物中のヒ素の化学形態別分析手法の検討⁽¹⁾ 大阪市立大学・⁽²⁾ 広島大学 ○岡林克樹¹・益田晴恵¹・種田圭司¹・三田村宗樹¹・前田俊介¹・岡崎香生里¹・下中智美¹・高橋嘉夫²

14:45-15:00 3A14

バングラデシュ・シヨナルガオの地下水涵養域における ヒ素汚染地下水形成(大阪市立大学) ○前田俊介・益田晴恵・三田村宗樹

15:00-15:15 3A15

バングラデシュ・シヨナルガオ地域のヒ素汚染地下水の涵養年代⁽¹⁾ 大阪市立大学・⁽²⁾ 信州大学・⁽³⁾ 産業技術総合研究所 ○益田晴恵¹・前田俊介¹・岡林克樹¹・三田村宗樹¹・中塚真司²・森川徳敏³

15:15-15:30 3A16

琵琶湖北湖の貧酸素化にともなう Mn・As の動態変化(愛媛大学) ○板井啓明・兵部唯香・早瀬大祐・田辺信介

15:30-15:45 3A17

ヒ素化合物の溶存形態と拡散係数の関係についての理論化学的研究(広島大学) ○田中雅人・坂光美香・高橋嘉夫

15:45-16:00 3A18

吾妻川中流域の水質に対する草津白根火山地域の温泉水・鉱山排水の影響(上智大学) ○都築暎矢・木川田喜一・大井隆夫

16:00-16:15 3A19

陸-海地球化学圏を用いた日本沿岸海域における物質移動の解明について(産業技術総合研究所) ○太田充恒・今井登・立花好子

16:15-16:30 3A20

希土類元素とリン酸の親和性に関する考察: 堆積物中のホスト相や希土類元素の分離回収に関連して⁽¹⁾ 広島大学・⁽²⁾ アイシン・コスモス研究所 ○高橋嘉夫¹・近藤和博²・宮地亜沙美¹・田中万也¹・淺岡聡¹

【B会場】

セッション18 大気水圏地球化学(全般)

座長: 大木淳之(北海道大学)・吉川久幸(北海道大学)

14:30-14:45 3B12

九州西部(長崎県松浦市)における大気中粒子状水銀の発生源評価(静岡県立大学) ○坂田昌弘・石川友美・光延聖

14:45-15:00 3B13

群馬県万座温泉における希土類元素組成の特徴(上智大学) ○木川田喜一・深井恵・大井隆夫

15:00-15:15 3B14

草津白根山山頂火口湖「水釜」の水質形成機構の検討(上智大学) ○西本礼香・木川田喜一・大井隆夫

15:15-15:30 3B15

海洋から大気へ放出される有機ヨウ素化合物の特徴⁽¹⁾ 北海道大学・⁽²⁾ 国立環境研究所 ○大木淳之¹・横内陽子²

15:30-15:45 3B16

海底熱水活動によって海洋に放出される CO₂ の拡散挙動⁽¹⁾ 九州大学・⁽²⁾ (株)セレス ○下島公紀¹・前田義明²

【C会場】

セッション13 宇宙惑星化学1: 初期太陽系円盤の宇宙化学
 座長: 横山哲也(東京工業大学)・伊藤正一(北海道大学)・橋省吾(東京大学)

14:00-14:30 3C14 (招待)

惑星物質の重元素の同位体比に基づく遅い中性子捕獲反応の温度・密度条件への制約 (1 広島大学・2 原子力機構・3 国立天文台・4 東京大学) ○寺田健太郎¹・岩本信之²・青木和光³・吉田敬⁴

14:30-14:45 3C15

希ガスの担体 Q の探求 (1 大阪大学・2 ワシントン大学) ○松田准一¹・甘利幸子²

14:45-15:00 3C16

Tagish Lake のクロム同位体 (岡山大学) ○山下勝行

15:00-15:15 3C17

ステップワイズ法による始原的隕石の多元素同位体異常検出の試み (東京工業大学) ○横山哲也・伊藤伸朗・永井友一郎

15:15-15:30 3C18

始原的隕石における高精度 Mo 同位体比分析のための化学分離法の開発 (東京工業大学) ○永井友一郎・横山哲也

<休憩> 15:30-15:40

15:40-15:55 3C19

炭素質コンドライトに含まれる重水素に富む有機物のラマンスペクトル (北海道大学) ○横口未奈子・小林幸雄・根本尚義

15:55-16:10 3C20

低温表面反応による水分子生成とその同位体効果 (北海道大学) ○大塚康弘・渡部直樹・香内晃

16:10-16:25 3C21

低温の星間塵表面における窒素原子への水素原子付加反応によるアンモニア生成 (北海道大学) ○日高宏・香内晃・渡部直樹

16:25-16:40 3C22

原始惑星系円盤条件での金属鉄・フォーステライトの凝縮速度論 (東京大学) ○橋省吾・永原裕子・小澤一仁・瀧川晶

【D会場】

セッション4 水-鉱物界面の地球化学
 座長: 福士圭介(金沢大学)・柏原輝彦(海洋研究開発機構)・青藤拓巳(東京大学)

14:00-14:20 3D09 (招待)

水酸化第二鉄による As(V) の共沈機構 (早稲田大学) ○所千晴

14:20-14:35 3D10

鉄・マンガンクラストへの Te の選集機構 (1 広島大学・2 海洋研究開発機構・3 高知大学) ○杉山敏基¹・坂口綾¹・高橋真夫¹・柏原輝彦²・大石泰子¹・臼井朗³

14:35-14:50 3D11

表面結体構造の比較に基づく鉄マンガン酸化物への吸着におけるモリブデン同位体分別機構の解明 (1 海洋研究開発機構・2 広島大学) ○柏原輝彦¹・高橋真夫²

14:50-15:05 3D12

Mg²⁺存在下で析出する CaCO₃ の結晶多形に及ぼす アスパラギン酸の影響 (1 東京大学・2 東京都立産業技術研究センター) ○山崎香奈¹・古野徹²・角野浩史¹・鎌裕之¹

15:05-15:20 3D13

非晶質炭酸カルシウムの圧力誘起結晶化: 含水量と圧力応答の関係 (1 東京大学・2 東京都立産業技術研究センター) ○丸山浩司¹・古野徹²・鎌裕之¹

<休憩> 15:20-15:30

15:30-15:50 3D14 (招待)

圧縮ベントナイト中の放射性核種の拡散挙動 (北海道大学) ○小嶋寛

15:50-16:05 3D15

原位固液分配係数測定システムの開発 (1 金沢大学・2 日本原子力研究開発機構) ○長谷川優介¹・山本祐平²・青才大介²・水野崇²・前田耕志¹・福士圭介¹

16:05-16:20 3D16

花崗岩への Eu 吸着の表面結体モデリング (1 金沢大学・2 日本原子力研究開発機構) ○前田耕志¹・長谷川優介¹・福士圭介¹・山本祐平²・青才大介²・水野崇²

16:20-16:35 3D17

モノハイドロカルサイトによるリン酸の吸着 (金沢大学) ○八木新大朗・福士圭介

【E会場】

セッション12 マントル物質の化学とダイナミクス

座長：下田玄（産業技術総合研究所）・小木曾哲（京都大学）・鈴木勝彦（海洋研究開発機構）

14:15-14:30 3E07

リソスフェアの厚さが海洋島玄武岩の化学組成に与える影響（産業技術総合研究所）○下田玄

14:30-14:45 3E08

中央インド洋海嶺とレユニオンホットスポットの相互作用による中央海嶺玄武岩の組成変化（¹早稲田大学・²東京大学・³（株）ウエザーニューズ・⁴新潟大学・⁵サザンブロン国立海洋センター・⁶海洋研究開発機構）○町田嗣樹¹・折橋裕二²・マルコ マニアーニ³・根尾夏紀⁴・サマンサ アンスワース⁵・谷水雅治⁶・玉木賢策²

14:45-15:00 3E09

マントルの地球化学的東半球の存在（東京工業大学）○岩森光・中村仁美

15:00-15:15 3E10

キンバーライトとその構成鉱物のハロゲン元素組成（¹学習院大学・²京都大学・³東京大学）○遠山知亜紀¹・村松康行¹・山本順司²・角野浩史³・中井俊一³・兼岡一郎³

15:15-15:30 3E11

Rb-Sr and Sm-Nd isotopic dating of gabbroic and granitic bodies in the Misho area, NW Iran（¹タブリーズ大学・²名古屋大学）○Ahankoub Maryam¹・Jahangiri Ahmad¹・遠原良浩²・Moayed Mohsen¹

15:30-15:45 3E12

玄武岩質試料に対する強親鉄性元素定量法の再検討（¹東京大学・²海洋研究開発機構）○石川晃¹・仙田量子²・鈴木勝彦¹

15:45-16:00 3E13

カンラン岩中の白金族元素含有相の起源について（京都大学）○小木曾哲

第3日目(9月16日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール), コアタイム 13:00~14:30

セッション8 陸域・土壌・水圏生態系の物質循環

3P01
東シベリア永久凍土帯における水循環システムの水同位体比を用いた研究(北海道大学) ○藤野真也・岩花剛・杉本敦子

3P02
東シベリア域インディギルカ川下流域における溶解有機物の分布特性(北海道大学・ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所) ○山下洋平¹・藤野真也¹・杉本敦子¹・岩花剛¹・トロフィーム マキシモフ²

3P03
東シベリアタイガーツンドラ境界生態系の植物の窒素利用と¹⁵N安定同位体比(北海道大学・ロシア科学アカデミー寒冷圏生物学研究所) 梁茂¹・杉本敦子¹・トロフィーム マキシモフ²

3P04
モンゴル森林-草原境界生態系の樹木と土壌の炭素・窒素安定同位体比(北海道大学・モンゴル国立大学) 藤吉晴¹・津久清朱美¹・内埜裕子¹・杉本敦子¹・パータービレッジ ナチン²

3P05
多肥茶園土壌における N_2O 生成と消滅過程のアイソトポマー解析(東京工業大学・野菜茶葉研究所) 細顔¹・廣野祐平²・柳井洋介²・服部祥平¹・豊田栄¹・吉田尚弘¹

3P06
石狩川下流域に置ける脱窒過程の動態評価(北海道大学) ○ジャ パウン クマール・南川雅男

3P07
融雪地帯を流れる河川・河口・沿岸海洋環境および温室効果気体の動態(酪農学園大学) ○窪田千穂・吉田磨

3P08
大気中二酸化炭素濃度変動に対するミズゴケの応答を調査する栽培装置の開発(九州大学) ○安田早希・高田理恵・大木誠吾・赤木右

3P09
日本国内の山地浸流水質の長期変化および全国分布の実態(電力中央研究所) ○池田英史・石井孝・今村正裕・中野大助・山本亮介

3P10
北海道水同位体マップ作成と応用に向けた水の安定同位体比の定点観測(北海道大学) ○都築佑太・時岡仁志・山下洋平・柴田英昭・杉本敦子

3P11
サケ由来の元素の瀬上河川周辺における分布と動態(道総研地質研究所・道総研林業試験場・道総研さけます・内水面試験場・北海道大学) ○仁科健二¹・長坂有²・中島美由紀^{3,4}

セッション17 水圏環境地球化学

3P12
富山県東部河川における硝酸態窒素の輸送状況(富山大学) ○佐野和広・張勁

3P13
富山湾沿岸海底湧水の基礎生産への寄与(富山大学・魚津水族館) ○太田陽子¹・張勁¹・稲村修²・伊串祐紀²

3P14
黒部川扇状地地下水の同位体地球化学的特徴と経年変化(富山大学) ○中島祐平・張勁・佐竹洋・阿熱玄熱改旦

3P15
硝酸の同位体組成を指標に用いた東京湾における窒素循環解析(北海道大学・東京海洋大学) ○中川書子¹・角皆潤¹・小松大祐¹・久保篤史²・神田雄太²

3P16
東京湾の酸化還元環境の変化による底質中元素の挙動(東京大学) ○起孝志・小豆川博見・松尾基之

3P17
富士山周辺地域の地下水における水-玄武岩間のバナジウム挙動に関する研究(慶應義塾大学) ○寺田匡志・鹿園直雄

3P18
表層土壌および地下岩石圏でのヨウ素の挙動解明(産業技術総合研究所・広島大学・日本原子力研究開発機構・東京大学・学習院大学) ○東野洋子¹・高橋嘉夫²・天野由記³・松崎浩之⁴・村松康行⁵・岩月輝希²

3P19
北海道幌延町周辺における地下水中のリグニン濃度と帯水層堆積環境(幌延地圏環境研究所・日本原子力研究開発機構・北海道大学・ノーステック財団) 遠藤亮¹・玉村修司¹・岩月輝希²・天野由記²・五十嵐敏文³・大味泰⁴

3P20
大阪平野を流れる大和川・寝屋川水系における河川水質の地域特性とその要因(同志社大学) ○島優花・横尾頼子

3P21
塩基性河川水の化学的特徴(近畿大学・大阪市立大学) ○山中康平¹・中口謙¹・益田晴恵²・中桑武司²

3P22
長良川河口堰域の堆積物における重金属濃度の特徴(名古屋大学) ○藤布達・上野藍一郎・杉谷健一郎

3P23
フィリピン・ラグナ湖集水域の水質マッピング(総合地球環境学研究所) ○齊藤哲・中野孝教・申基・丸山誠史・宮川千絵・矢尾田清幸・轟田良平

3P24
ガーナ・アクラ地域のe-waste処理場周辺における微量元素汚染(愛媛大学) ○大塚将成・板井啓明・Kwado Ansong Asante・武藤衛・田辺信介

3P25
北海道天北地域新第三紀および古第三紀堆積岩中の有機物のキャラクタリゼーション(幌延地圏環境研究所・日本原子力研究開発機構・ノーステック財団・北海道大学) ○玉村修司¹・遠藤亮¹・岩月輝希²・天野由記²・大味泰³・五十嵐敏文⁴

3P26
十勝堆積盆地東部における地下水中の有機物の起源(電力中央研究所) ○伊藤由紀・宮川公雄

3P27
二枚貝を構成する殻殻を用いた潮間帯重金属汚染評価指標の確立(名古屋大学) ○伊藤由喜・山本鎮志・林誠司

3P28
オオクテバスの $\delta^{13}C$ ・ $\delta^{15}N$ による淡水域の環境評価(北海道大学・富山大学) 稲村修¹・張勁²・南川雅男¹

3P29
動的光散乱法を用いたケイ酸の重合過程における粒子径分布の観察(九州大学) ○大津瑛美・江藤真由美・大橋弘範・岡上吉広・横山拓史

3P30
レーザー吸収法による水同位体比高精度測定(総合地球環境学研究所・富山大学) ○丸山誠史¹・田中優司²・平山翔子²・日下部実²・張勁²・中野孝教¹

3P31
農業地帯における温室効果気体の動態(酪農学園大学) ○岡崎祐樹・窪田千穂・吉田磨

3P32
日本海側における大気エアロゾルのイオンおよびホウ素同位体比の季節変化-中国大陸での燃焼の影響-(静岡県立大学) ○石川友美・坂田昌弘・光延聖

3P33
森林における低分子ジカルボン酸・脂質の組成と日変化(北海道大学・名古屋大学) ○野坂圭¹・河村公隆¹・持田隆宏²・岩本洋子²

3P34
大気水圏地球化学(全般)

3P35
大気水圏地球化学(全般)

第3日目(9月16日)ポスターセッション
ポスター会場(学術交流会館ホール), コアタイム 13:00~14:30

3P34
中国泰山大気中におけるモノカルボン酸のガス-エアロゾル相の分配
(北海道大学) ○中村進之介・河村公隆

3P35
北京郊外マンションで採取した大気エアロゾル試料中の有機物トレーサーの研究(北海道大学) ○橋飛・河村公隆

3P36
2011年に東大阪市で捕集された黄砂粒子の個別粒子分析(近畿大学)
○藤原司・尾崎健吾・中口謙・佐野到・向井苑生

3P37
立山・室堂平の積雪層中の陸上植物バイオマーカー組成とその安定水素同位体比(北海道大学) ○山本真也・中村進之介・関幸・河村公隆

3P38
多摩川における水銀と鉛の負荷量と発生源の評価(静岡県立大学) ○直井知之・坂田昌弘・光延聖

3P39
陸上化学風化の数値モデルの開発と河川水組成の推定(東京大学) ○野津太一・田近英一

セッション4 水-鉱物界面の地球化学

3P40
水酸化鉄鉱物の相変化がヒ素やアンチモンの環境挙動に与える影響
(静岡県立大学) ○村松千尋・光延聖・坂田昌弘

3P41
カルサイトへと分配するヒ素及びセレンの価数選択性に関する考察
—量子化学計算の適用—(広島大学) ○横山由佳・高橋嘉夫・田中雅人

3P42
シュベルトマナイトによるケイ酸の捕捉挙動とその安定化(九州大学)
○那仁高娃・大橋弘範・サビタ アチャレ・岡上吉広・横山拓史

セッション7 炭化水素資源の地球化学

3P43
高圧下におけるメタン生成菌のメタン生成反応に伴う同位体分別とその支配要因(産業技術総合研究所) ○佐藤朋之・眞弓大介・菅川秀紀・堀知行・羽田博豪・坂田将・成田英夫・鎌形洋一

3P44
高温油層へのCO₂の注入が常在微生物のメタン生成活動に与える影響(1)
産業技術総合研究所・INPEX) ○眞弓大介¹・坂田将¹・前田治男²・宮川善洋²・五十嵐雅之²

3P45
ヨーロッパ中央部の頁岩コア中の天然ガス(電力中央研究所) ○中田英二・富岡祐一・木方達彦

3P46
熊野海盆泥火山流体のLi同位体組成とその起源(1) 海洋研究開発機構・2
琉球大学) ○西尾嘉朗¹・井尻峻¹・土岐知弘²・徳野祐樹¹・福垣史生¹

3P47
Insights into the intramolecular ¹³C isotope distribution of long chain n-alkanes studied by isotopic ¹³C NMR (東京工業大学) ○Alexis Gilbert・山田柱大・吉田尚弘

3P48
東部南海トラフメタンハイドレート含有堆積物の包括的二次元ガスクロマトグラフによるバイオマーカー分析(石油天然ガス・金属鉱物資源機構)
○天羽美紀・井澤柳子・真保恵美子・波多野佳子・島田忠明

3P49
高等植物セスキテルペノイドの加水熱分解生成物中のナフタレン類とアダマンタン類の特徴(北海道大学) ○今川達也・鈴木徳行・齋藤裕之・松本公平

セッション12 マントル物質の化学とダイナミクス

3P50
全溶融ガラスを用いた全岩化学組成の分析: 日本海の海山から得られたアルカリ玄武岩の化学組成(金沢大学) ○田村明弘・森下知果・荒井章司

3P51
青森に産する黒曜マンテル捕獲岩に記録されたスラブ由来成分(1) 京都大学・2
金沢大学) ○芳川雅子¹・荒井章司²・柴田知之¹・石丸聡子²

セッション19 固体地球化学(全般)

3P52
P-TIMS法による微量ホウ素の高精度同位体比分析におけるグラファイト量最適値の定量的評価(1) (株) マリン・ワーク・ジャパン・2 海洋研究開発機構) ○松岡淳¹・石川剛志²

3P53
多重検出型 ICP 質量分析計を用いた新たな高精度ホウ素同位体比の迅速測定法の開発(1) (株) マリン・ワーク・ジャパン・2 海洋研究開発機構) ○永石一弥¹・谷水雅治²

3P54
東南極 Lutzow-Holm 岩体に産するアルカリ~高カリウム貫入岩の産状(1) 九州大学・2 筑波大学・3 国立極地研究所) ○宮本知治¹・角替勉昭²・ダンクリー ダニエル³

3P55
過剰アルゴン: 輸送・捕獲過程(岡山理科大学) ○兵藤博信

3P56
Determination of major and trace elements of glasses and minerals by a 200nm UV femto-second laser ablation coupled to a sensitivity enhanced sector field ICP-MS (海洋研究開発機構) ○常青・木村統一

3P57
中国地方における⁸⁷Sr/⁸⁶Sr同位体比地球化学図(1) 名古屋大学・2 産業技術総合研究所) ○南雅代¹・森健太¹・城森由佳¹・今井登²

3P58
九州地方の地球化学図と元素分布の特徴(産業技術総合研究所) ○御子集真澄・今井登・立花好子

3P59
シベリア産遷移鉱床ダイヤモンドの希ガス同位体比分析による(東京大学) ○豊島大地・角野浩史

セッション20 地球化学のフロンティア

3P60
木村石の再検討及び木村石の合成(名古屋大学) ○熊文放・川邊岩夫・加藤文典

3P61
安定同位体比質量分析計(SOPRIME)を用いた高精度・高感度の炭素酸素安定同位体組成総合分析システムの開発(1) 産業技術総合研究所・2 東京大学・3 北海道大学) ○石村豊穂¹・魚里怜那²・北川貴士²・木村伸吾²・角皆潤³

3P62
電子顕微鏡観察による柱状オパールの変質の速度論(九州大学) ○江本真理子・赤木石・高橋孝三